

第II章 医療保障

1. ケガや病気に対する不安意識

ここでは、傷病に対する不安意識について、その程度や内容について捉えている。

(1) ケガや病気に対する不安の有無

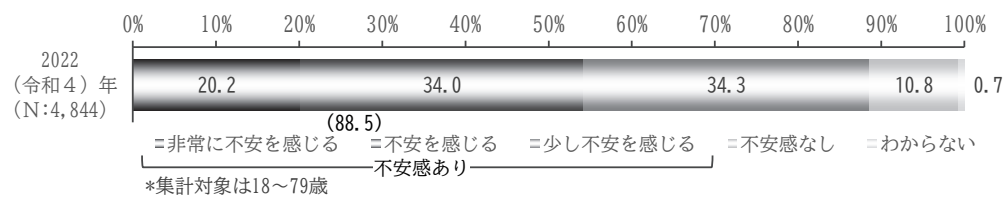
まず、自分自身がケガや病気をする事についての不安の有無と程度を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ケガや病気により健康を害することについて、どの程度不安を感じていますか。

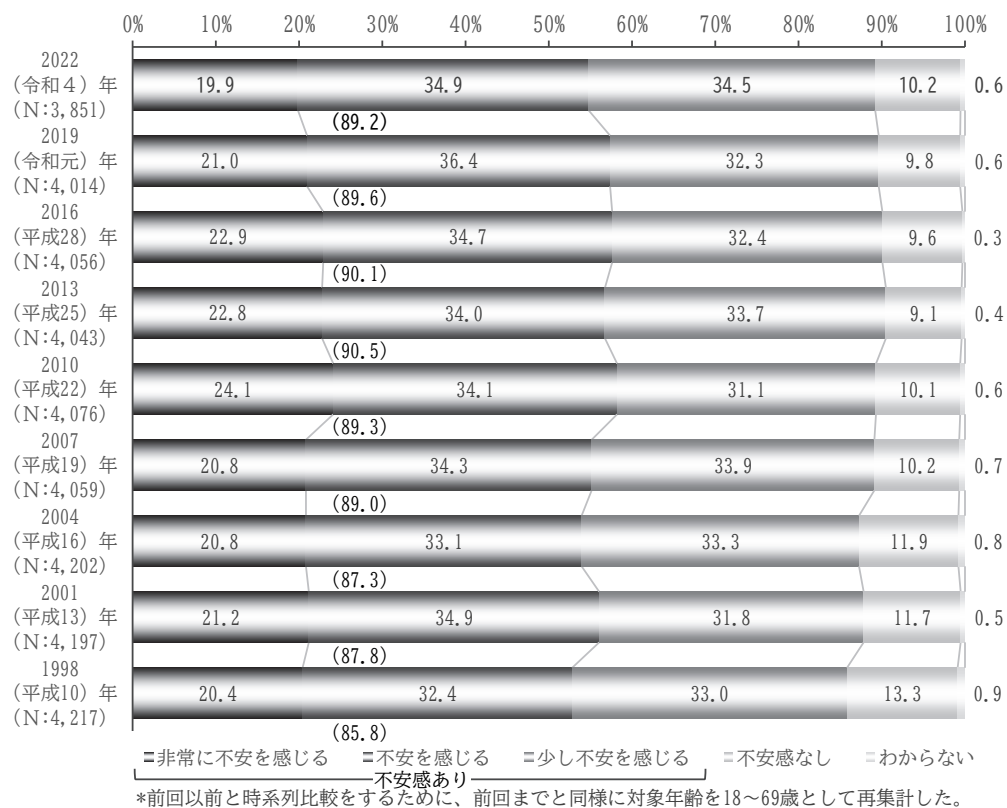
- (ア) 非常に不安を感じる
- (イ) 不安を感じる
- (ウ) 少し不安を感じる
- (エ) 不安を感じない……………以下「不安感なし」
わからない

その結果、「不安感あり」（上記の選択肢で（ア）～（ウ）のいずれかに回答した人の合計）は88.5%、内訳としては“不安を感じる”と“少し不安を感じる”がそれぞれ3割を超え、“非常に不安を感じる”は2割を超えている。また、「不安感なし」は10.8%となっている。（図表Ⅱ－1）

<図表Ⅱ-1> ケガや病気に対する不安の有無



【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



性別にみると、「不安感あり」で女性（90.5％）が男性（86.1％）を4.4ポイント上回っている。
性・年齢別にみると、「不安感あり」は男女とも40歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－2）

<図表 Ⅱ-2> ケガや病気に対する不安の有無〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	非常に不安を感じる	不安を感じる	少し不安を感じる	不安感あり	不安感なし	わからない
男 性	2,141	17.8	33.8	34.5	86.1	13.2	0.7
20歳代	235	16.2	33.2	30.6	80.0▲	18.7	1.3
30歳代	275	14.9	36.0	33.1	84.0	14.9	1.1
40歳代	375	17.1	35.7	38.1	90.9	8.3▲	0.8
50歳代	358	19.0	34.6	35.2	88.8	10.6	0.6
60歳代	422	19.0	30.8	35.8	85.5	14.0	0.5
70歳代	447	19.5	33.6	32.4	85.5	13.9	0.7
女 性	2,703	22.1	34.2	34.2	90.5	9.0	0.6
20歳代	210	21.9	33.8	27.1▲	82.9▲	17.1	0.0
30歳代	366	18.9	37.2	35.8	91.8	7.7	0.5
40歳代	534	22.8	35.6	37.3	95.7	4.1▲	0.2
50歳代	508	22.4	35.4	34.3	92.1	7.5	0.4
60歳代	505	23.2	35.2	32.3	90.7	8.7	0.6
70歳代	546	23.1	28.0▲	35.0	86.1▲	12.8	1.1

(2) ケガや病気に対する不安の内容

前述「(1) ケガや病気に対する不安の有無」で「不安感あり」と回答した人に対して、その具体的な不安の内容を明らかにするため、以下のように尋ねた。

具体的にどのようなことを不安に思っていますか。この中からいくつかでもお答えください。

- (ア) 公的医療保険だけでは不十分なこと ……以下「公的医療保険だけでは不十分」
- (イ) 長期の入院により医療費がかさむこと ……以下「長期の入院で医療費がかさむ」
- (ウ) 公的医療保険のきかない差額ベッド代が自己負担費用としてかかること
……………以下「保険対象外の差額ベッド代がかかる」
- (エ) 公的医療保険のきかない先進医療の技術料が自己負担費用としてかかること
……………以下「保険対象外の先進医療の費用がかかる」
- (オ) 家族の見舞いや看護など様々な付随的な費用がかかること
……………以下「家族の見舞いなど付随的費用がかかる」
- (カ) 現在の経済的準備では必要となる費用がまかなえないこと
……………以下「現在の準備では費用がまかなえない」
- (キ) 障害等により、就労困難・不能となること ……以下「障害等により就労不能となる」
- (ク) 治療が長期にわたり収入が途絶えること ……以下「治療の長期化で収入が途絶える」
- (ケ) 三大疾病であるガンや心疾患、脳血管疾患にかかること ……以下「三大疾病にかかる」
- (コ) 肝硬変や高血圧症、糖尿病などの慢性疾患にかかること ……以下「慢性疾患にかかる」
- (サ) 不慮の事故にあらうこと ……以下「不慮の事故にあらう」
- (シ) 後遺症や障害が残ること ……以下「後遺症や障害が残る」
- (ス) 適切な治療が受けられるかどうかかわからないこと ……以下「適切な治療が受けられるかわからない」
- (セ) 家族に肉体的・精神的負担をかけること ……以下「家族に肉体的・精神的負担をかける」
- (ソ) 入院前と同じように仕事に復帰できるかどうかかわからないこと
……………以下「以前のように仕事に復帰できるかわからない」
- (タ) その他
わからない

その結果、「家族に肉体的・精神的負担をかける」が 51.8%と最も高く、以下「長期の入院で医療費がかさむ」(50.1%)、「後遺症や障害が残る」(46.7%) の順となっている。(図表Ⅱ－3)

<図表Ⅱ-3> ケガや病気に対する不安の内容

(複数回答、単位：%)														
	N	家族に肉体的・精神的負担をかける	長期の入院で医療費がかさむ	後遺症や障害が残る	三大疾病にかかる	公的医療保険だけでは不十分	不慮の事故にあらう	障害等により就労不能となる	治療の長期化で収入が途絶える	保険対象外の先進医療の費用がかかる	現在の準備では費用がまかなえない	慢性疾患にかかる	保険対象外の差額ベッド代がかかる	以前のように仕事に復帰できるかわからない
2022 (令和4)年	4,288	51.8	50.1	46.7	41.8	41.4	41.2	38.9	31.7	29.2	27.6	26.3	23.3	22.7

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみると、2010（平成 22）年以降、僅かながら「以前のように仕事に復帰できるかわからない」の増加傾向が続いている。

(複数回答、単位：%)

	N	家族に肉体的・精神的負担をかける	長期の入院で医療費がかさむ	後遺症や障害が残る	三大疾病にかかる	公的医療保険だけでは不十分	不慮の事故にあらう	障害等により就労不能となる	治療の長期化で収入が途絶える	保険対象外の先進医療の費用がかかる	現在の準備では費用がまかなえない	慢性疾患にかかる	保険対象外の差額ベッド代がかかる	以前のように仕事に復帰できるかわからない	家族の見舞いなど付随的費用がかかる	適切な治療が受けられるかわからない	その他	わからない
2022 (令和4) 年	3,436	52.3	49.8	48.1	42.1	41.8	42.1	44.2	35.1	29.7	28.8	26.9	22.5	26.0	22.5	18.6	0.4	0.9
2019 (令和元) 年	3,598	52.3	51.8	46.3	42.9	42.0	40.8	43.7	36.3	30.3	31.2	25.4	21.9	25.4	23.4	18.2	0.5	0.6
2016 (平成28) 年	3,653	54.2	53.6	47.5	42.5	41.9	41.7	42.0	34.9	34.1	30.6	25.4	23.4	23.7	23.0	20.1	0.7	0.7
2013 (平成25) 年	3,659	44.3	55.5	36.6	34.4	44.9	36.4	35.0	30.0	33.7	29.8	19.0	21.4	20.0	18.6	15.0	0.6	0.8
2010 (平成22) 年	3,639	48.1	58.6	39.3	38.0	52.3	37.1	35.3	32.5	35.5	32.6	22.1	25.3	21.0	18.8	18.6	0.7	0.8

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性別にみると、女性の方が高い項目は、「家族に肉体的・精神的負担をかける」、「長期の入院で医療費がかさむ」等の7項目となっている。男性は「慢性疾患にかかる」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも30～50歳代で「障害等により就労不能となる」、「治療の長期化で収入が途絶える」、「以前のように仕事に復帰できるかわからない」が高くなっている。（図表Ⅱ－4）

<図表Ⅱ-4> ケガや病気に対する不安の内容〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)										
	N	家族に肉体的・精神的負担をかける	長期の入院で医療費がかさむ	後遺症や障害が残る	三大疾病にかかる	不十分の医療保険だけでは	不慮の事故にあう	障害等により就労不能となる	治療の長期化で収入が途絶える	の保険対象外の先進医療
男 性	1,843	44.5	47.9	43.2	40.9	39.3	41.7	38.3	30.9	26.5
20歳代	188	38.8	44.7	45.2	34.6	26.1▲	43.6	40.4	36.2	17.0▲
30歳代	231	49.8	45.0	51.1	40.7	34.2	46.8	50.6	41.6	22.9
40歳代	341	41.6	47.2	41.9	42.2	40.2	40.5	50.1	37.8	26.1
50歳代	318	48.7	51.6	46.2	45.9	49.4	45.9	54.7	41.5	31.1
60歳代	361	44.3	47.1	43.5	42.4	42.1	38.2	27.7▲	21.6▲	30.5
70歳代	382	44.5	50.0	35.6▲	38.7	38.7	38.7	15.2▲	16.2▲	26.7
女 性	2,445	57.3	51.7	49.3	42.5	43.0	40.9	39.3	32.2	31.3
20歳代	174	47.7▲	54.0	47.1	35.6	41.4	44.8	44.3	32.8	26.4
30歳代	336	58.6	56.5	50.3	44.0	38.4	46.1	53.3	42.3	31.0
40歳代	511	57.7	49.1	50.5	42.7	44.4	41.3	50.3	40.7	33.7
50歳代	468	63.9	53.0	52.4	43.8	45.3	40.6	43.4	36.5	33.3
60歳代	458	57.4	49.8	50.0	44.1	46.9	38.6	31.4▲	25.5▲	33.6
70歳代	470	53.8	52.3	45.1▲	42.3	41.3	36.8▲	18.7▲	19.1▲	27.7

	N	現在の準備では費用が	慢性疾患にかかる	ド保険が対象外の差額ペツ	帰以で前のようなかわにか仕事に復	的家族の費用が見舞いなど付随	る適切な治療が受けられ	その他	わからない
男 性	1,843	27.2	28.9	20.4	21.3	20.6	15.8	0.4	1.6
20歳代	188	35.6	18.6▲	17.6	24.5	21.3	11.7	1.6	1.1
30歳代	231	25.5	30.7	18.6	32.0	22.5	13.9	0.0	1.3
40歳代	341	27.9	28.4	17.6	27.9	21.1	13.2	0.0	1.2
50歳代	318	33.0	34.6	24.8	28.9	24.2	20.8	0.3	0.3▲
60歳代	361	24.1	32.1	21.6	15.0▲	18.0	18.6	0.8	2.2
70歳代	382	22.0▲	26.4	21.2	8.4▲	17.8	15.2	0.3	2.9
女 性	2,445	27.8	24.3	25.4	23.7	22.3	21.1	0.6	0.7
20歳代	174	33.9	17.8▲	15.5▲	24.1	24.7	17.2	0.6	0.6
30歳代	336	31.3	25.6	24.1	28.9	24.4	21.7	0.6	0.6
40歳代	511	29.0	22.9	24.7	32.3	23.3	19.0	0.0	0.4
50歳代	468	29.9	29.1	26.7	28.8	24.6	22.4	0.4	0.4
60歳代	458	24.9	26.4	25.5	19.4▲	21.6	21.4	0.2	0.9
70歳代	470	23.2▲	21.5	30.4	9.8▲	17.4▲	23.8	1.5	1.3

2. 過去5年間の入院経験

(1) 入院経験の有無と入院日数

ここでは、過去5年間の自分自身のケガや病気による入院経験の有無と通算入院日数について、以下のように尋ねた。

あなたは過去5年間に、ケガや病気で入院されたことがありますか。ただし正常な妊娠や分娩のための入院は除いてお答えください。

入院したことがある ……………以下「入院経験あり」

入院したことはない ……………以下「入院経験なし」

わからない

①入院経験

その結果、「入院経験あり」の割合は16.7%となっている。

年齢別では、「入院経験あり」は高年齢層ほど高く、70歳代では29.1%となっている。(図表Ⅱ-5)

<図表Ⅱ-5> 過去5年間の入院経験の有無〔年齢別〕

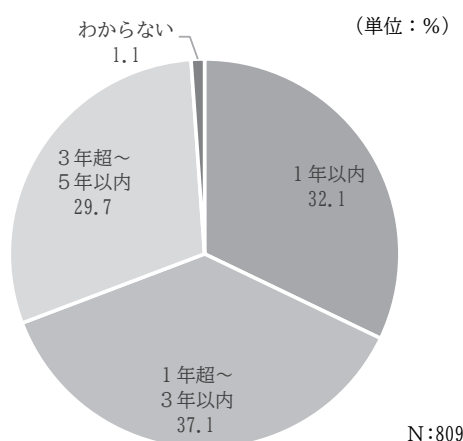
(単位：%)

	N	入院経験あり	入院経験なし	わからない
全 体	4,844	16.7	83.2	0.1
20歳代	445	9.9▲	89.9	0.2
30歳代	641	8.9▲	91.1	0.0
40歳代	909	10.9▲	89.1	0.0
50歳代	866	15.0	85.0	0.0
60歳代	927	20.2	79.7▲	0.1
70歳代	993	29.1	70.8▲	0.1

また、「入院経験あり」とした人の、一番最近の入院の時期は、「1年以内」が32.1%、「1年超～3年以内」が37.1%、「3年超～5年以内」が29.7%となっている。(図表Ⅱ-6)

<図表Ⅱ-6> 直近の入院の時期

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

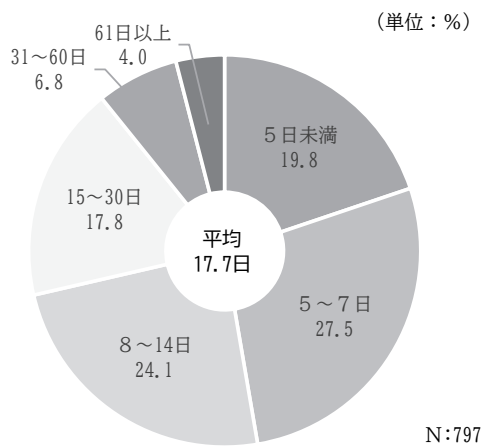


②直近の入院時の入院日数

入院経験がある人の、直近の入院における入院日数は、平均で 17.7 日となっている。入院日数の分布をみると、「5～7 日」が 27.5%、「8～14 日」が 24.1%となっている。（図表Ⅱ－7）

<図表Ⅱ-7> 直近の入院時の入院日数

〔集計ベース：過去5年間に入院した人〕



年齢別にみると、概ね高年齢層ほど入院日数が長くなっている。（図表Ⅱ－8）

<図表Ⅱ-8> 直近の入院時の入院日数〔年齢別〕

〔集計ベース：過去5年間に入院した人〕

(単位：%)

	N	5日未満	5～7日	8～14日	15～30日	31～60日	61日以上	平均(日)
全 体	797	19.8	27.5	24.1	17.8	6.8	4.0	17.7
20歳代	44	20.5	38.6	15.9	13.6	6.8	4.5	18.0
30歳代	57	22.8	40.4	19.3	10.5	5.3	1.8	12.1
40歳代	98	19.4	35.7	26.5	12.2	2.0▲	4.1	15.1
50歳代	128	24.2	28.9	21.9	18.8	4.7	1.6	14.7
60歳代	180	21.1	23.9	25.6	18.3	5.6	5.6	18.8
70歳代	287	16.4	21.6▲	25.8	21.3	10.5	4.5	20.5

(2) 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験

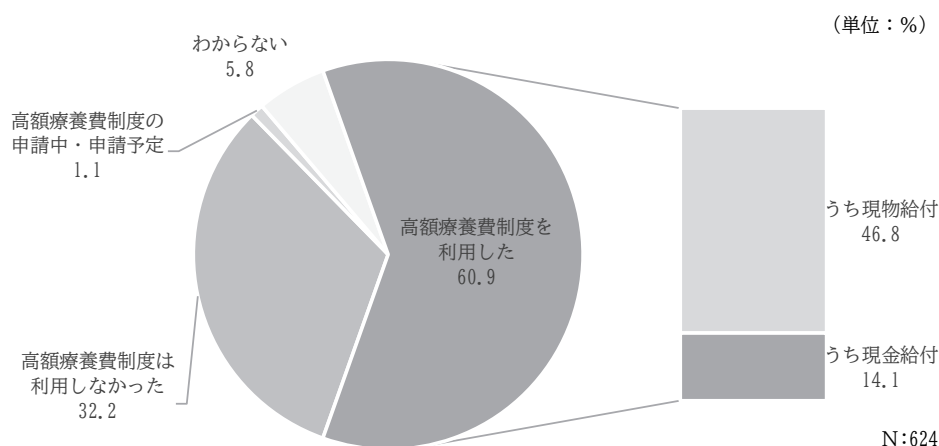
次に、直近の入院時の高額療養費制度の利用経験について、以下のように尋ねた。

- その一番最近の入院で掛かった費用に関して高額療養費制度を利用しましたか。
- (ア) 高額療養費制度の現物給付（自己負担限度額分のみを支払った）を利用した
..... 以下「現物給付を利用した」
- (イ) 高額療養費制度の現金給付（差額分の払い戻しを受けた）を利用した
..... 以下「現金給付を利用した」
- (ウ) 高額療養費制度は利用しなかった（高額療養費制度が適用されない金額だった）
- (エ) 現在、高額療養費制度の利用を申請中、もしくはこれから申請する予定
..... 以下「高額療養費制度の申請中・申請予定」
- わからない

その結果、「高額療養費制度を利用した」は60.9%、「高額療養費制度は利用しなかった」は32.2%となっている。また、「高額療養費制度を利用した」人のうち、「現物給付を利用した」が46.8%、「現金給付を利用した」が14.1%となっている。（図表Ⅱ－9）

<図表 Ⅱ-9> 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験

〔集計ベース：過去5年間に入院した人〕



直近の入院時の高額療養費制度の利用経験を年齢別にみると、「高額療養費制度を利用した」は50歳代で70.2%となっている。（図表Ⅱ－10）

<図表 Ⅱ-10> 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験〔年齢別〕

〔集計ベース：過去5年間に入院した人〕

(単位：%)

	N	現物給付を利用した	現金給付を利用した	高額療養費制度を利用した	高額療養費制度は利用しなかった	高額療養費制度の申請中・申請予定	わからない
全 体	624	46.8	14.1	60.9	32.2	1.1	5.8
20歳代	27	22.2▲	7.4	29.6▲	51.9	0.0	18.5
30歳代	43	39.5	9.3	48.8	44.2	0.0	7.0
40歳代	76	47.4	17.1	64.5	32.9	1.3	1.3
50歳代	104	46.2	24.0	70.2	22.1▲	2.9	4.8
60歳代	154	53.2	12.3	65.6	29.9	1.3	3.2
70歳代	219	47.0	11.4	58.4	33.8	0.5	7.3

(3) 直近の入院時の自己負担費用

直近の入院時の自己負担費用について、以下のように尋ねた。

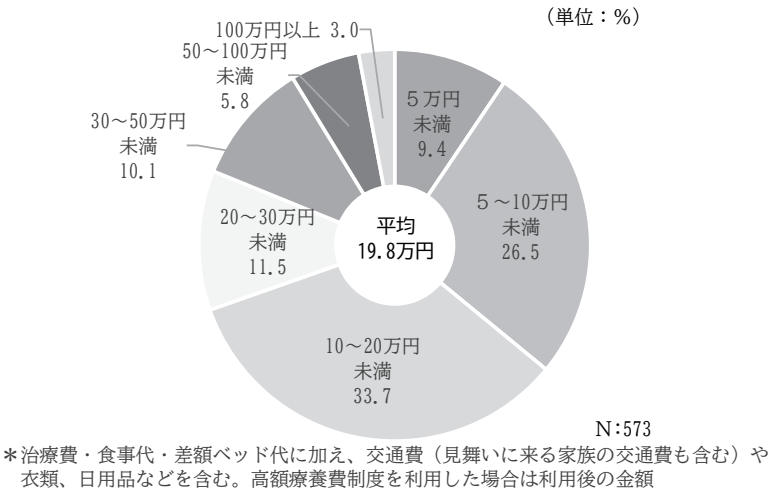
その一番最近の入院で実際に掛かった費用は全部でおよそいくらぐらいでしたか。治療費・食事代・差額ベッド代に、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品なども含めてお答えください。高額療養費制度を利用した場合は、利用後の金額をお答えください。

約□□□□万□千円
掛かった費用はない
わからない

その結果、高額療養費制度を利用した人及び利用しなかった人（適用外含む）の直近の入院時の自己負担費用*の平均は 19.8 万円となっている。費用の分布をみると、「10～20 万円未満」が 33.7%、「5～10 万円未満」が 26.5%、「20～30 万円未満」が 11.5%、「30～50 万円未満」が 10.1%となっている。（図表Ⅱ－11）

<図表Ⅱ-11> 直近の入院時の自己負担費用

〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
（高額療養費制度を利用した人＋利用しなかった人（適用外含む））〕



直近の入院時の入院日数別に自己負担費用をみると、入院日数が長くなるほど自己負担費用が高く、“61 日以上”では 75.9 万円となっている。（図表Ⅱ－12）

<図表Ⅱ-12> 直近の入院時の自己負担費用〔直近の入院時の入院日数別〕

〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
（高額療養費制度を利用した人＋利用しなかった人（適用外含む））〕

(単位：%)

	N	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～50万円未満	50～100万円未満	100万円以上	平均(万円)
全 体	573	9.4	26.5	33.7	11.5	10.1	5.8	3.0	19.8
5日未満	116	25.9	38.8	26.7	6.0▲	1.7▲	0.9▲	0.0▲	8.7
5～7日	162	6.8	36.4	34.0	11.1	8.6	1.9▲	1.2	15.2
8～14日	132	6.8	23.5	44.7	12.1	9.1	2.3	1.5	16.4
15～30日	110	2.7▲	11.8▲	36.4	14.5	18.2	12.7	3.6	28.4
31～60日	33	3.0	9.1▲	18.2	24.2	24.2	15.2	6.1	30.9
61日以上	14	0.0	0.0▲	14.3	7.1	14.3	35.7	28.6	75.9

*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

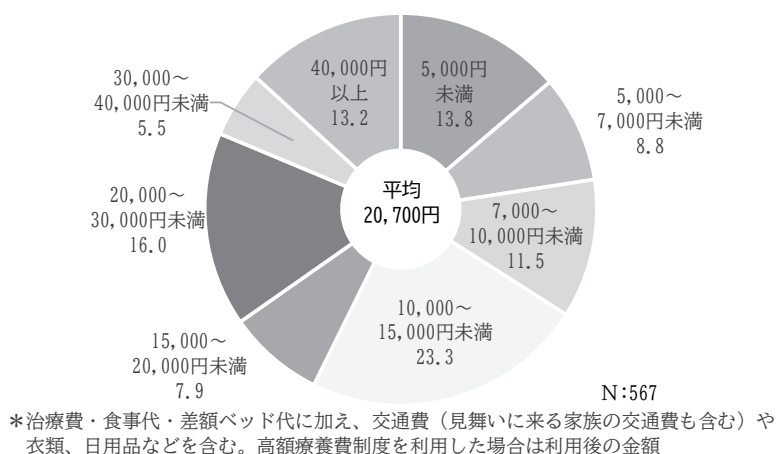
自己負担費用の総額を入院日数で除した1日あたりの自己負担費用*は、平均で20,700円となっている。費用の分布をみると、「10,000～15,000円未満」が23.3%と最も多く、以下「20,000～30,000円未満」(16.0%)、「5,000円未満」(13.8%)、「40,000円以上」(13.2%)の順となっている。(図表Ⅱ-13)

*サンプルごとに算出したものの平均値

<図表Ⅱ-13> 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用

〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
(高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人(適用外含む))〕

(単位：%)



直近の入院の時期別に1日あたりの自己負担費用をみると、「1年超～3年以内」で21,600円と最も高い金額となっている。(図表Ⅱ-14)

<図表Ⅱ-14> 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用〔直近の入院の時期別〕

〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
(高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人(適用外含む))〕

(単位：%)

	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～40,000円未満	40,000円以上	平均(円)
全 体	567	13.8	8.8	11.5	23.3	7.9	16.0	5.5	13.2	20,700
1 年 以 内	187	16.6	10.7	9.6	21.9	5.3	17.1	5.9	12.8	19,400
1 年超～3 年以内	221	10.0▲	7.7	10.4	25.3	10.9	15.8	5.0	14.9	21,600
3 年超～5 年以内	156	14.7	8.3	15.4	22.4	7.1	15.4	5.8	10.9	20,700

*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費(見舞いに来る家族の交通費も含む)や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

(4) 直近の入院時の逸失収入の有無

直近の入院時の逸失収入について、以下のように尋ねた。

その一番最近の入院により失われた収入はおよそいくらぐらいでしたか。

約□□□□万□千円

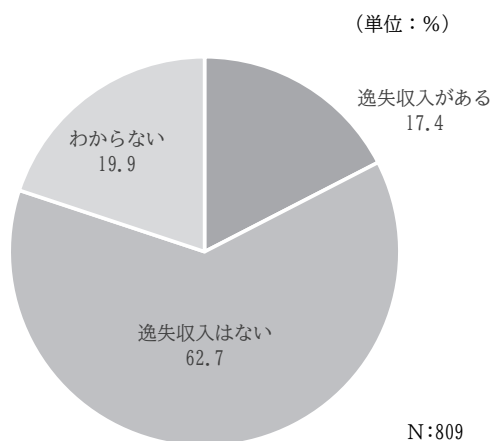
失われた収入はない

わからない

その結果、直近の入院において逸失収入があった割合は 17.4% となっている。(図表Ⅱ－15)

<図表Ⅱ-15> 直近の入院時の逸失収入の有無

[集計ベース：過去5年間に入院した人]



年齢別にみると、「逸失収入がある」は 40 歳代で高くなっている。(図表Ⅱ－16)

<図表Ⅱ-16> 直近の入院時の逸失収入の有無〔年齢別〕

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

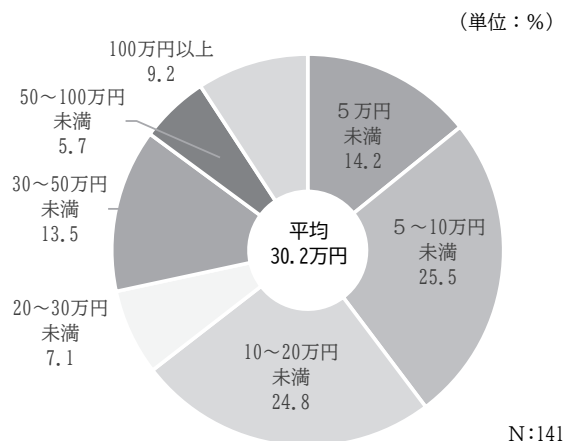
	N	逸失収入 がある	逸失収入 はない	わからない
全 体	809	17.4	62.7	19.9
20歳代	44	9.1	70.5	20.5
30歳代	57	15.8	70.2	14.0
40歳代	99	26.3	49.5▲	24.2
50歳代	130	22.3	57.7	20.0
60歳代	187	17.6	59.9	22.5
70歳代	289	13.8▲	68.5	17.6

(5) 直近の入院時の逸失収入

逸失収入があった人の直近の入院時の逸失収入の平均は 30.2 万円となっている。分布をみると、「5～10 万円未満」が 25.5%、「10～20 万円未満」が 24.8%、「5 万円未満」が 14.2%となっている。(図表Ⅱ－17)

<図表 Ⅱ-17> 直近の入院時の逸失収入

[集計ベース：過去5年間に入院し、逸失収入があった人]

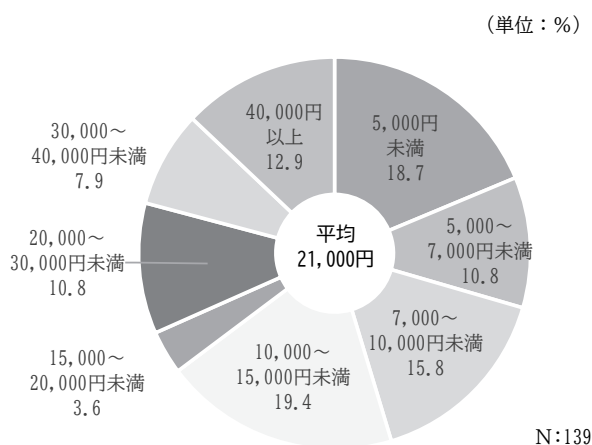


逸失収入の総額を入院日数で除した1日あたりの逸失収入*は、平均で 21,000 円となっている。分布をみると、「10,000～15,000 円未満」が 19.4%、「5,000 円未満」が 18.7%、「7,000～10,000 円未満」が 15.8%となっている。(図表Ⅱ－18)

*サンプルごとに算出したものの平均値

<図表 Ⅱ-18> 直近の入院時の1日あたりの逸失収入

[集計ベース：過去5年間に入院し、逸失収入があった人]

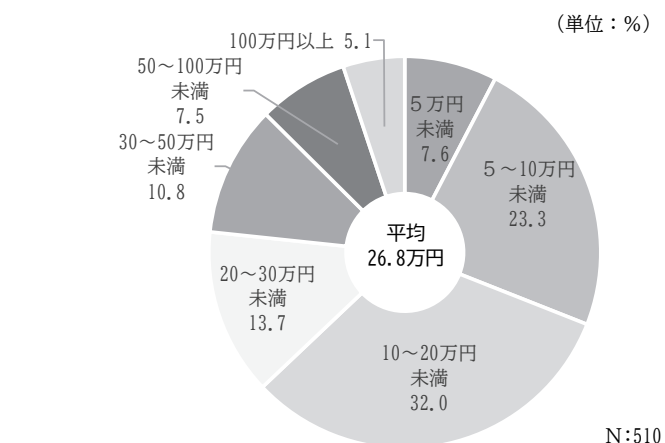


(6) 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額

入院経験がある人の、直近の入院における自己負担費用と逸失収入の総額*の平均は 26.8 万円となっている。分布をみると、「10～20 万円未満」が 32.0%、「5～10 万円未満」が 23.3%、「20～30 万円未満」が 13.7%となっている。(図表Ⅱ－19)

<図表Ⅱ-19> 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]



*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

直近の入院時の入院日数別に自己負担費用と逸失収入の総額をみると、概ね入院日数が長くなるほど平均額が高くなっている。(図表Ⅱ－20)

<図表Ⅱ-20> 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額〔直近の入院時の入院日数別〕

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]

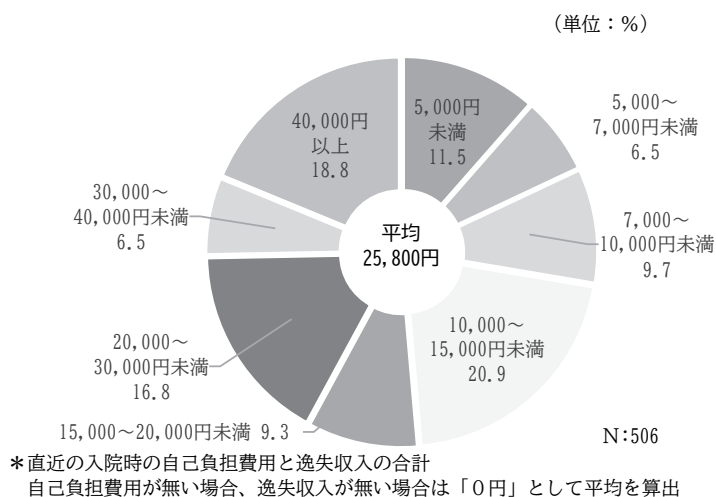
		(単位：%)							
	N	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～50万円未満	50～100万円未満	100万円以上	平均 (万円)
全 体	510	7.6	23.3	32.0	13.7	10.8	7.5	5.1	26.8
5日未満	104	22.1	39.4	25.0	11.5	1.0▲	1.0▲	0.0▲	9.6
5～7日	143	4.2	29.4	35.0	15.4	11.2	3.5▲	1.4▲	18.9
8～14日	119	5.9	21.0	38.7	14.3	9.2	5.0	5.9	26.3
15～30日	101	2.0▲	8.9▲	33.7	12.9	19.8	12.9	9.9	38.6
31～60日	29	3.4	6.9▲	20.7	17.2	20.7	20.7	10.3	44.8
61日以上	10	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	50.0	30.0	96.5

*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

自己負担費用と逸失収入の総額を入院日数で除した1日あたりの額*をみると、平均は25,800円となっている。分布をみると、「10,000～15,000円未満」が20.9%、「40,000円以上」が18.8%、「20,000～30,000円未満」が16.8%、「5,000円未満」が11.5%となっている。(図表Ⅱ-21)

*サンプルごとに算出したものの平均値

＜図表Ⅱ-21＞ 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額
〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人〕



直近の入院の時期別に1日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額をみると、“3年超～5年以内”で最も高く、28,500円となっている。(図表Ⅱ-22)

＜図表Ⅱ-22＞ 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額〔直近の入院の時期別〕
〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人〕

(単位：%)

	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～40,000円未満	40,000円以上	平均(円)
全 体	506	11.5	6.5	9.7	20.9	9.3	16.8	6.5	18.8	25,800
1 年 以 内	169	14.8	7.1	10.1	24.3	7.7	14.8	5.3	16.0	22,700
1 年超～3 年以内	194	8.8	5.2	8.8	22.7	10.8	16.0	7.2	20.6	26,800
3 年超～5 年以内	141	9.9	7.8	10.6	14.9	9.2	20.6	7.1	19.9	28,500

*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

(7) 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段

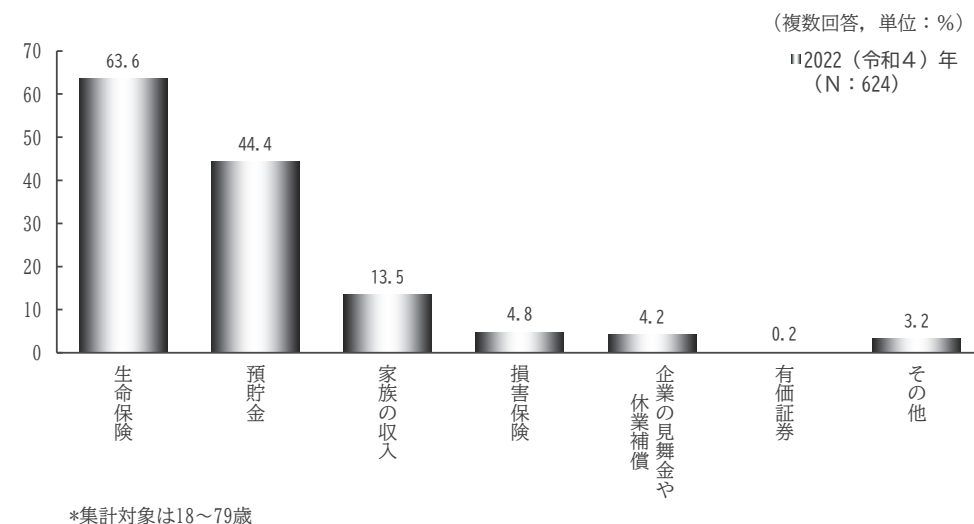
直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段について、以下のように尋ねた。

その一番最近の入院で実際に掛かった費用や失われた収入をどのような手段でまかないましたか。この中からいくつかでもお答えください。

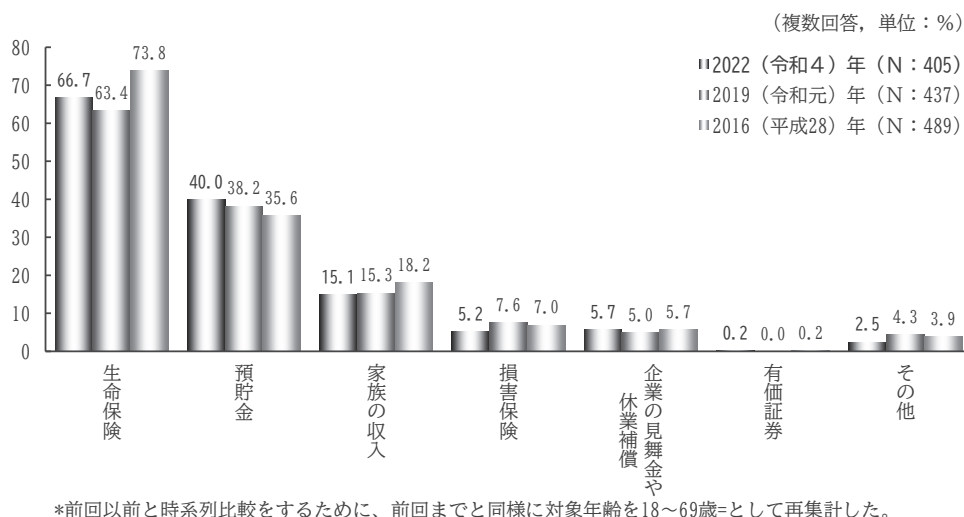
- (ア) 民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）……………以下「生命保険」
- (イ) 損害保険
- (ウ) 預貯金
- (エ) 株式・債券などの有価証券……………以下「有価証券」
- (オ) 企業の見舞金や休業補償
- (カ) 家族の収入
- (キ) その他
わからない

その結果、「生命保険」が 63.6%で最も高く、以下「預貯金」（44.4%）、「家族の収入」（13.5%）の順となっている。（図表Ⅱ-23）

<図表Ⅱ-23> 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段



【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



年齢別にみると、40 歳代では「企業の見舞金や休業補償」が、50 歳代では「損害保険」が、70 歳代では「預貯金」が、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－24）

<図表 Ⅱ-24> 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段〔年齢別〕

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保 険	預 貯 金	家 族 の 収 入	損 害 保 険	や企 業 の 見 舞 金 補 償	有 価 証 券	そ の 他
全 体	624	63.6	44.4	13.5	4.8	4.2	0.2	3.2
20歳代	27	48.1	25.9▲	40.7	0.0	3.7	0.0	7.4
30歳代	43	62.8	34.9	14.0	4.7	9.3	0.0	2.3
40歳代	76	68.4	38.2	15.8	2.6	9.2	0.0	1.3
50歳代	104	67.3	44.2	11.5	9.6	4.8	0.0	1.0
60歳代	154	70.1	41.6	12.3	4.5	3.9	0.6	3.2
70歳代	219	58.0▲	52.5	10.5	4.1	1.4▲	0.0	4.6

3. 公的医療保険に対する意識

ここでは、医療保障に対する私的準備の意識や実態を探るうえで前提となる、人々の公的医療保険に対する評価などの意識面について捉えている。

(1) 公的医療保険に対する考え方

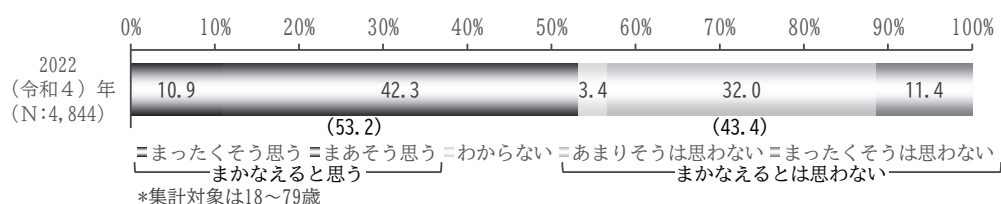
自分の医療費を公的医療保険でまかなえると考えているかを捉えるため、以下のように尋ねた。

自分の医療費は、今後も公的な健康保険だけで大部分まかなえる

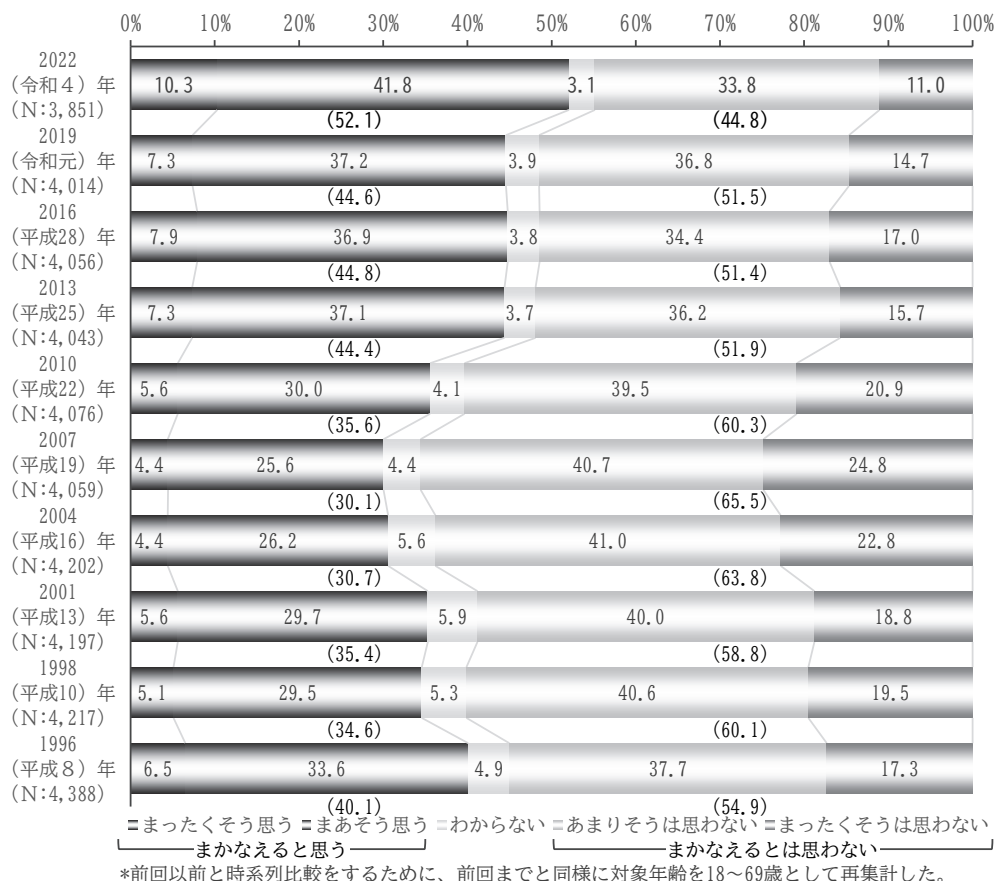
- (ア) まったくそう思う
- (イ) まあそう思う
- (ウ) あまりそうは思わない
- (エ) まったくそうは思わない
- わからない

その結果、「まかなえると思う」（「まったくそう思う」と「まあそう思う」と回答した人の合計）は 53.2%、「まかなえるとは思わない」（「あまりそうは思わない」と「まったくそうは思わない」と回答した人の合計）は 43.4%となっている。（図表Ⅱ-25）

<図表Ⅱ-25> 公的医療保険に対する考え方



【参考】前回と比較すると、「まかなえると思う」が 7.5 ポイント増加し、「まかなえるとは思わない」が 6.7 ポイント減少している。



性別にみると、「まかなえると思う」は男性 55.9%、女性 51.1%となっている。

性・年齢別にみると、「まかなえると思う」は女性の 20 歳代、70 歳代で高く、「まかなえるとは思わない」は男女とも 40～50 歳代で高くなっている。(図表Ⅱ－26)

<図表Ⅱ-26> 公的医療保険に対する考え方〔性・年齢別〕

	N	(単位：%)						
		まったく そう思う	まあ そう思う	まかなえる と思う	わからない	まかなえる とは思 わない	あまりそう は思わない	まったく そうは 思わない
男 性	2,141	12.1	43.7	55.9	3.4	40.8	30.5	10.3
20歳代	235	12.3	48.9	61.3	4.7	34.0▲	29.4	4.7▲
30歳代	275	11.6	48.0	59.6	2.9	37.5	29.8	7.6
40歳代	375	11.5	36.3▲	47.7▲	2.1	50.1	39.5	10.7
50歳代	358	12.0	39.1	51.1▲	2.5	46.4	34.9	11.5
60歳代	422	10.9	46.0	56.9	3.8	39.3	27.0	12.3
70歳代	447	14.1	45.6	59.7	3.8	36.5▲	24.4▲	12.1
女 性	2,703	9.9	41.2	51.1	3.5	45.4	33.1	12.3
20歳代	210	10.0	49.0	59.0	7.1	33.8▲	27.1	6.7▲
30歳代	366	10.9	43.2	54.1	2.7	43.2	33.1	10.1
40歳代	534	8.6	40.1	48.7	1.3▲	50.0	37.1	12.9
50歳代	508	8.5	35.2▲	43.7▲	1.8▲	54.5	41.1	13.4
60歳代	505	9.3	40.4	49.7	3.4	46.9	33.3	13.7
70歳代	546	12.6	43.2	55.9	5.7	38.5▲	25.1▲	13.4

(2) 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か

ケガや病気による治療や入院に対する準備に対して、今後、公的保障の充実を志向しているのか、自助努力での準備を志向しているのかを捉えるため、以下の形式で尋ねた。

ここに、ケガや病気で治療や入院されることになった場合の備えについて、A、B 2つの考え方があげられています。あなたのお考えは、A、B どちらの考え方に近いでしょうか。

A：自助努力で準備していくよりは、今より高い保険料や税金を払ってでも公的医療保険を充実してもらいたい

B：公的医療保険の充実のために今よりも高い保険料や税金を払うよりは、自助努力で準備していきたい

(ア) Aに近い

(イ) どちらかといえばAに近い

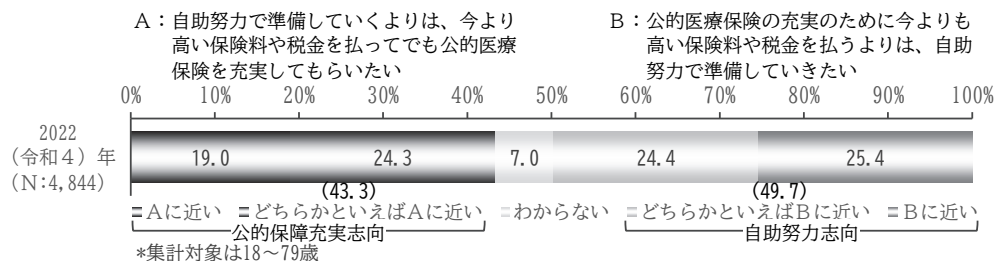
(ウ) どちらかといえばBに近い

(エ) Bに近い

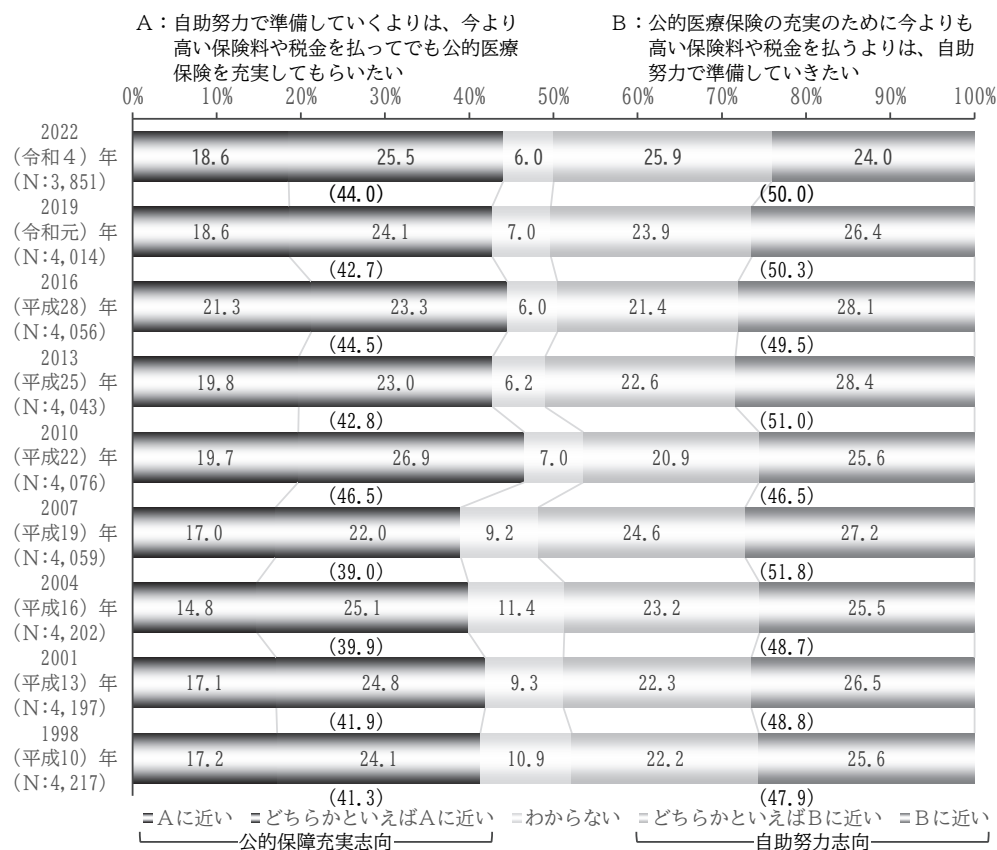
わからない

その結果、「公的保障充実志向」（「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」と回答した人の合計）は43.3%、「自助努力志向」（「どちらかといえばBに近い」と「Bに近い」と回答した人の合計）は49.7%となっている。（図表Ⅱ-27）

<図表 Ⅱ-27> 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か



【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性別にみると、「公的保障充実志向」は男性で46.0%、女性で41.2%となっている。
性・年齢別にみると、「公的保障充実志向」は女性40歳代で高くなっている。(図表Ⅱ-28)

<図表Ⅱ-28> 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	Aに近い	どちらかといえばAに近い	公的保障充実志向	わからない	自助努力志向	どちらかといえばBに近い	Bに近い
男 性	2,141	21.2	24.8	46.0	6.4	47.6	23.0	24.6
20歳代	235	16.2▲	31.5	47.7	5.1	47.2	28.5	18.7▲
30歳代	275	22.5	20.4	42.9	4.0	53.1	26.2	26.9
40歳代	375	21.6	25.6	47.2	4.3	48.5	24.5	24.0
50歳代	358	18.7	27.4	46.1	5.9	48.0	26.5	21.5
60歳代	422	23.7	23.9	47.6	6.6	45.7	19.7	26.1
70歳代	447	21.9	22.6	44.5	9.8	45.6	17.7▲	28.0
女 性	2,703	17.2	23.9	41.2	7.4	51.4	25.5	26.0
20歳代	210	19.5	23.8	43.3	9.0	47.6	26.2	21.4
30歳代	366	10.4▲	30.6	41.0	5.7	53.3	26.5	26.8
40歳代	534	17.0	28.3	45.3	5.2▲	49.4	27.5	21.9▲
50歳代	508	19.3	23.0	42.3	4.5▲	53.1	29.7	23.4
60歳代	505	16.4	22.2	38.6	8.5	52.9	25.3	27.5
70歳代	546	19.6	17.6▲	37.2▲	11.4	51.5	18.7▲	32.8

4. 医療保障に対する私的準備状況

ここでは、医療保障に対する私的な経済的準備の状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたのご家庭では、あなたご自身がケガや病気で治療や入院されることになった場合に備えて、公的医療保険以外で、現在経済的な準備をしていますか。この中に準備しているものがあれば、いくつでもお答えください。

- (ア) 民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）
.....以下「生命保険」
- (イ) 損害保険
- (ウ) 預貯金
- (エ) 株式・債券などの有価証券以下「有価証券」
- (オ) その他
- (カ) 特別な準備はしていない以下「準備していない」
わからない

その結果、「準備している」（上記の選択肢で（ア）～（オ）のいずれかに回答した人）は 82.7%、「準備していない」は 15.3%となっている。

具体的な準備手段をみると、「生命保険」が最も高く 68.8%、以下「預貯金」（44.5%）、「損害保険」（20.8%）の順となっている。（図表Ⅱ－29）

<図表Ⅱ-29> 医療保障に対する私的準備状況

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	その他	準備 して いる	準備 して いない	わ か ら な い
2022 (令和4)年	4,844	68.8	20.8	44.5	7.8	0.3	82.7	15.3	2.0

*集計対象は18～79歳

【参考】前回と比較すると、「準備している」が 2.3 ポイント減少している。

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	その他	準備 して いる	準備 して いない	わ か ら な い
2022 (令和4)年	3,851	69.8	21.4	42.1	8.0	0.2	82.7	15.1	2.2
2019 (令和元)年	4,014	73.1	20.6	41.8	5.8	0.4	85.0	12.9	2.1
2016 (平成28)年	4,056	72.9	20.9	42.0	5.6	0.5	84.2	14.1	1.7
2013 (平成25)年	4,043	70.5	19.5	38.3	5.1	0.6	82.8	15.9	1.3
2010 (平成22)年	4,076	71.0	19.8	38.1	5.4	0.5	82.2	15.9	1.9
2007 (平成19)年	4,059	70.3	24.8	37.7	5.5	0.5	82.0	16.5	1.4
2004 (平成16)年	4,202	68.0	21.8	37.5	4.1	0.3	79.3	17.2	3.5
2001 (平成13)年	4,197	66.9	25.9	40.2	4.6	0.4	80.2	16.9	2.8
1998 (平成10)年	4,217	70.4	25.9	42.5	4.4	0.3	81.8	15.8	2.4
1996 (平成8)年	4,388	70.1	22.9	40.7	4.3	0.8	82.4	16.1	1.5

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性別にみると、「準備している」は女性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「準備している」は男性では40～60歳代で、女性では50～60歳代で高くなっている。具体的な準備手段をみると、「生命保険」は男女とも40～60歳代で高く、「預貯金」は男女とも60～70歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－30）

<図表Ⅱ-30> 医療保障に対する私的準備状況〔性・年齢別〕

（複数回答，単位：％）

	N	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	その他	準備している	準備していない	わからない
男 性	2,141	66.2	22.9	44.5	10.4	0.4	80.6	16.9	2.6
20歳代	235	32.8▲	10.6▲	21.3▲	5.5▲	0.0	46.8▲	43.4	9.8
30歳代	275	68.4	20.7	47.3	13.5	0.4	82.2	14.9	2.9
40歳代	375	74.9	25.9	40.5	7.2▲	0.8	87.7	10.9▲	1.3
50歳代	358	72.1	30.4	45.5	11.5	0.3	89.9	9.2▲	0.8▲
60歳代	422	75.4	27.3	51.9	13.7	0.2	86.7	12.1▲	1.2▲
70歳代	447	64.7	19.0▲	52.6	10.3	0.4	81.2	17.4	1.3
女 性	2,703	70.9	19.1	44.4	5.7	0.2	84.5	14.0	1.6
20歳代	210	47.6▲	8.6▲	28.6▲	3.8	0.0	60.5▲	32.4	7.1
30歳代	366	72.4	14.8▲	46.4	7.1	0.3	85.2	14.5	0.3▲
40歳代	534	76.2	21.7	36.1▲	5.2	0.0	87.1	12.4	0.6▲
50歳代	508	77.2	25.2	45.3	6.5	0.2	90.6	9.1▲	0.4▲
60歳代	505	77.2	20.6	49.1	6.9	0.2	89.5	10.3▲	0.2▲
70歳代	546	65.2▲	17.6	54.2	4.2	0.5	84.1	14.5	1.5

性・本人職業別にみると、「準備している」は男性では自営者、公務員、中企業被用者、大企業被用者で、女性では商工サービス業、大企業被用者でそれぞれ高くなっている。

性・本人年収別では、男女とも概ね高年収層ほど「準備している」が高くなっている。（図表Ⅱ－31）

<図表 Ⅱ-31> 医療保障に対する私的準備状況〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

		（複数回答，単位：％）								
		N	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	その他	準備している	準備していない	わからない
男	性	2,141	66.2	22.9	44.5	10.4	0.4	80.6	16.9	2.6
本人職業	自 営 者	307	70.7	27.7	46.3	11.4	0.3	84.7	14.0	1.3
	農 林 漁 業	50	70.0	22.0	46.0	6.0	0.0	82.0	18.0	0.0
	商工サービス業	225	70.7	29.3	47.1	12.0	0.4	84.4	13.8	1.8
	常 雇 被 用 者	1,051	73.5	26.5	47.3	11.0	0.3	87.3	11.3▲	1.4▲
	公 務 員	90	84.4	37.8	57.8	6.7	0.0	92.2	7.8▲	0.0
	民間企業被用者	961	72.5	25.4	46.3	11.4	0.3	86.8	11.7▲	1.6▲
	小企業被用者	179	67.0	21.2	40.2	3.9▲	0.6	82.1	16.8	1.1
	中企業被用者	472	72.5	24.4	44.3	8.9	0.4	86.2	11.7▲	2.1
	大企業被用者	297	77.1	29.3	53.5	20.2	0.0	91.2	8.1▲	0.7▲
	非 正 規 社 員	168	54.2▲	19.0	38.7	6.5	0.0	71.4▲	25.6	3.0
	無	499	60.7▲	16.4▲	46.3	11.4	0.6	76.4▲	20.8	2.8
本人年収	収 入 は な い	103	23.3▲	4.9▲	16.5▲	1.0▲	1.0	33.0▲	52.4	14.6
	300 万 円 未 満	716	56.6▲	17.5▲	39.0▲	8.2▲	0.3	73.3▲	24.0	2.7
	300 ～ 500 万 円 未 満	446	70.9	23.3	45.7	9.4	0.4	86.1	12.6▲	1.3
	500 ～ 700 万 円 未 満	292	79.1	31.2	53.4	15.4	0.0	95.2	4.5▲	0.3▲
	700 ～ 1,000 万 円 未 満	171	83.6	35.1	56.7	18.1	1.8	95.9	3.5▲	0.6
	1,000 万 円 以 上	70	81.4	32.9	64.3	30.0	0.0	95.7	4.3▲	0.0
女	性	2,703	70.9	19.1	44.4	5.7	0.2	84.5	14.0	1.6
本人職業	自 営 者	199	81.9	23.6	44.2	7.5	1.0	92.5	7.0▲	0.5
	農 林 漁 業	27	92.6	7.4	37.0	0.0	3.7	96.3	0.0▲	3.7
	商工サービス業	148	84.5	26.4	46.6	8.8	0.7	93.9	6.1▲	0.0
	常 雇 被 用 者	673	74.6	23.6	45.3	7.3	0.1	87.4	11.9	0.7▲
	公 務 員	74	82.4	23.0	52.7	8.1	0.0	90.5	9.5	0.0
	民間企業被用者	599	73.6	23.7	44.4	7.2	0.2	87.0	12.2	0.8
	小企業被用者	145	76.6	24.1	33.8▲	4.8	0.0	87.6	10.3	2.1
	中企業被用者	261	69.3	21.5	42.5	8.0	0.0	83.9	15.7	0.4
	大企業被用者	164	78.7	27.4	56.1	8.5	0.6	90.9	8.5▲	0.6
	非 正 規 社 員	726	72.7	18.3	39.4▲	4.0▲	0.0	84.2	15.4	0.4▲
	無	1,023	68.4▲	16.7▲	49.8	5.9	0.3	84.9	13.9	1.2
本人年収	収 入 は な い	445	66.7▲	15.5▲	40.9	5.6	0.0	80.4▲	15.1	4.5
	100 万 円 未 満	615	67.0▲	16.6	44.6	4.2	0.0	82.6	16.1	1.3
	100 ～ 300 万 円 未 満	905	74.3	19.8	43.3	4.5	0.4	85.6	13.9	0.4▲
	300 ～ 500 万 円 未 満	277	76.2	23.1	52.7	11.6	0.0	91.0	8.7▲	0.4
	500 万 円 以 上	117	80.3	31.6	65.8	12.8	1.7	94.0	6.0▲	0.0

5. 医療保障としての生命保険

前節「4. 医療保障に対する私的準備状況」でみたように、「生命保険」による準備割合は約7割となっており、私的な経済的準備の中心的役割を果たしているといえる。

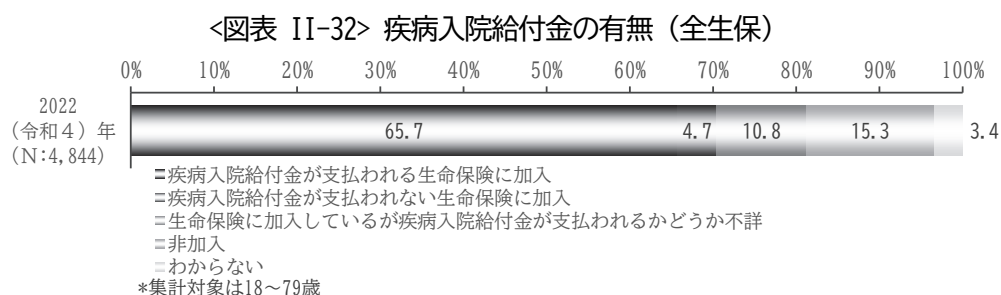
本節では、医療保障としての生命保険という観点から、疾病入院特約の付加された生命保険（個人年金保険や生命共済を含む）、および医療保険について、加入率および疾病入院給付金日額の実態をみていく。

(1) 疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率

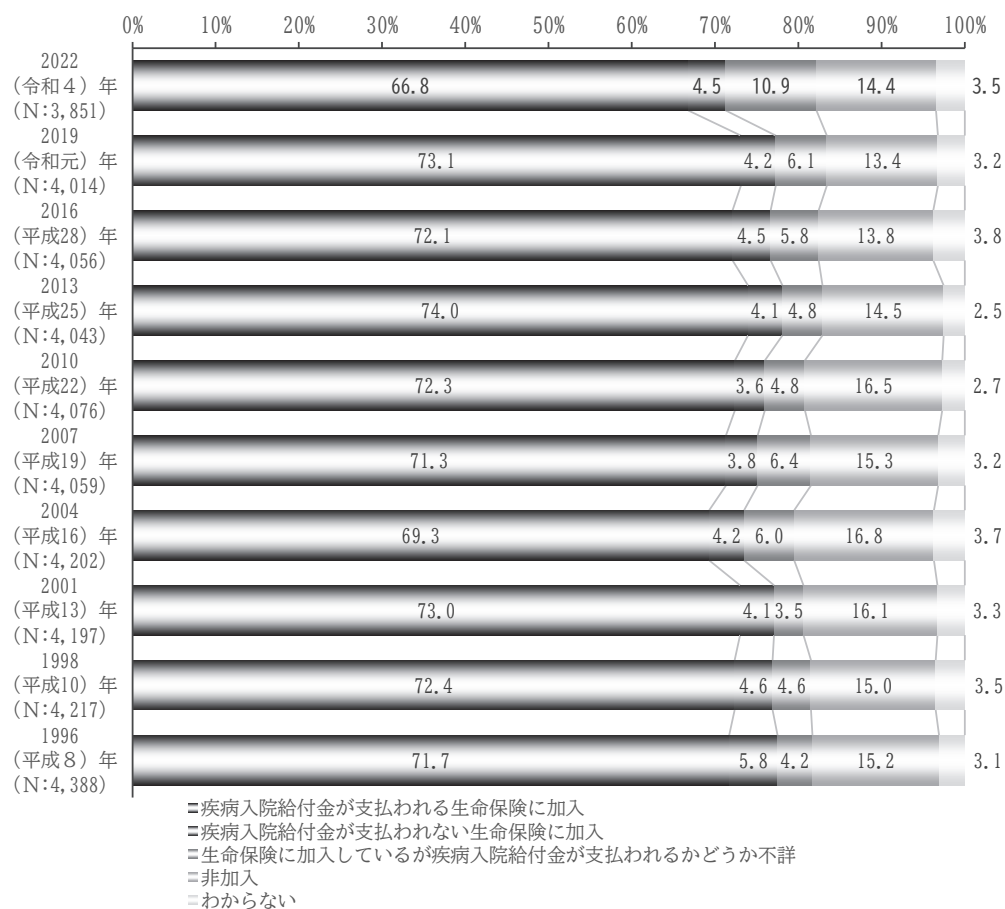
① 疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率（全生保）

民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）、県民共済・生協等に取り扱っている生命保険（個人年金保険や生命共済を含む）のうち、疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率は、65.7%となっている。（図表Ⅱ-32）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。



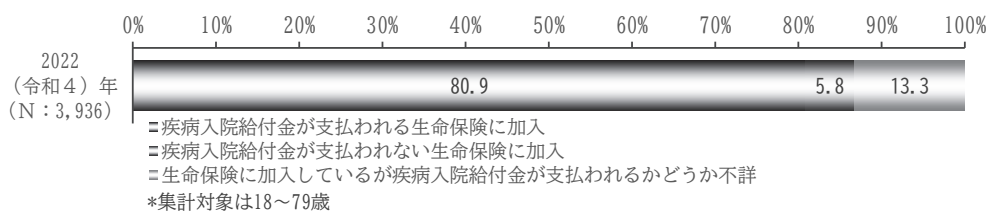
【参考】前回と比較すると、「疾病入院給付金が支払われる生命保険に加入」が 6.3 ポイント減少し、「生命保険に加入しているが疾病入院給付金が支払われるかどうか不詳」が 4.8 ポイント増加している。コロナ感染拡大に伴う行動制限による消費の減少等の経済環境の変化や世帯年収の減少などが背景にあると考えられる。



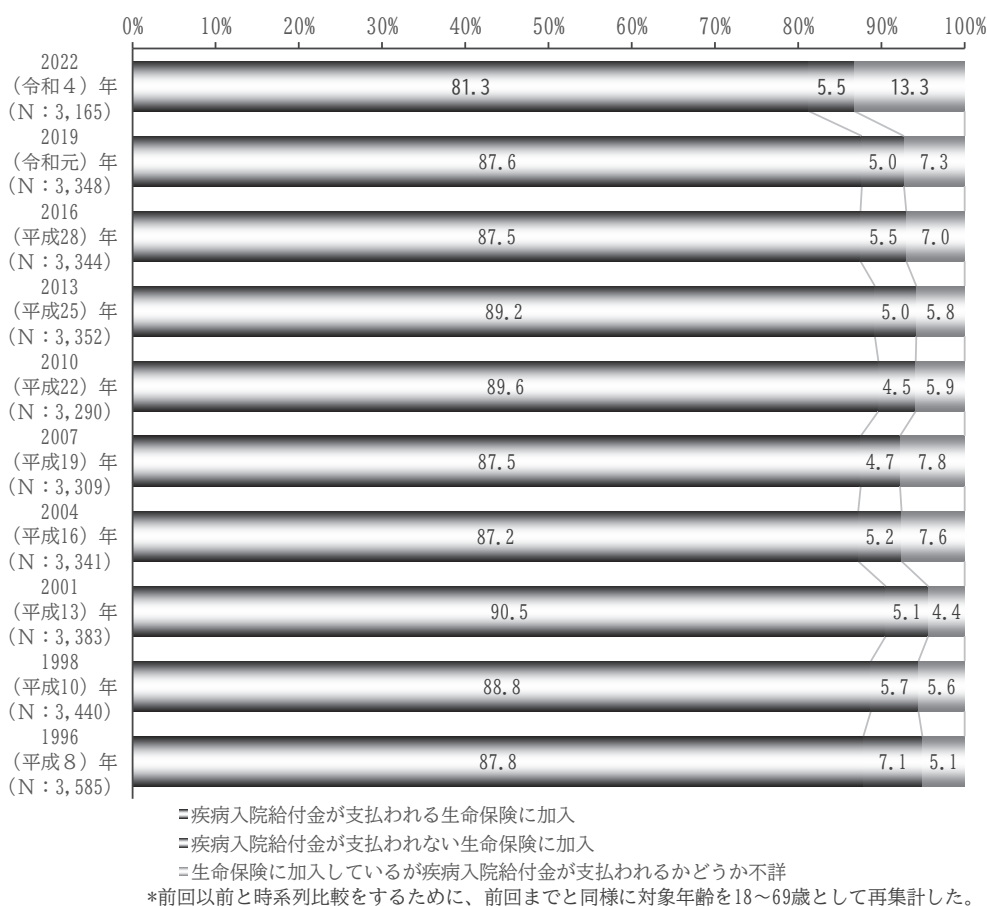
次に、生命保険および個人年金保険加入者に限定して疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率をみると、80.9%となっている。（図表Ⅱ－33）

<図表Ⅱ-33> 疾病入院給付金の有無（全生保）

〔集計ベース：生命保険、個人年金保険加入者〕



【参考】前回と比較すると、「疾病入院給付金が支払われる生命保険に加入」が 6.3 ポイント減少し、「生命保険に加入しているが疾病入院給付金が支払われるかどうか不詳」が 6.0 ポイント増加している。コロナ感染拡大に伴う行動制限による消費の減少等の経済環境の変化や世帯年収の減少などが背景にあると考えられる。

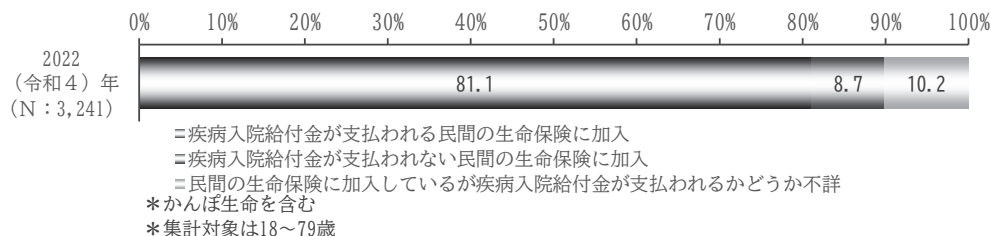


②疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率（民保）

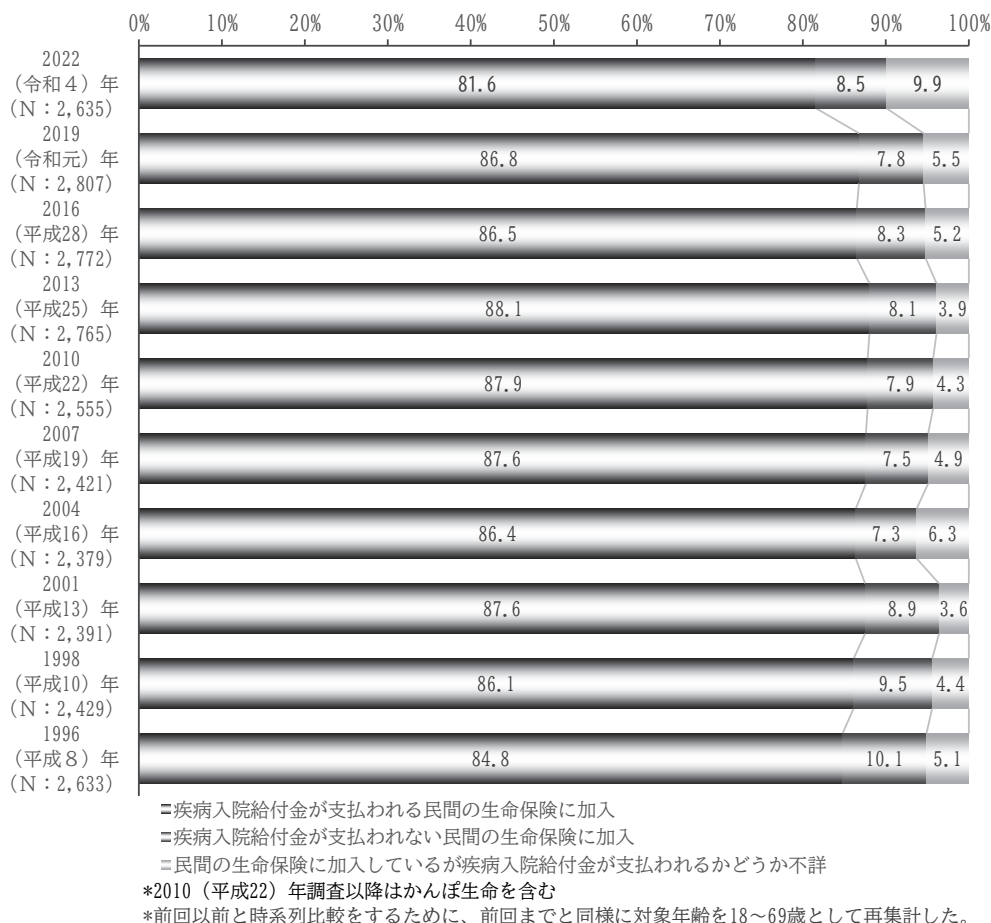
次に民間の生命保険および個人年金保険加入者に限定して疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率をみると、81.1%となっている。（図表Ⅱ－34）

<図表 Ⅱ-34> 疾病入院給付金の有無（民保）

〔集計ベース：民保の生命保険・個人年金保険加入者〕



【参考】「疾病入院給付金が支払われる生命保険に加入」が5.2ポイント減少し、「生命保険に加入しているが疾病入院給付金が支払われるかどうか不詳」が4.4ポイント増加している。コロナ感染拡大に伴う行動制限による消費の減少等の経済環境の変化や世帯年収の減少などが背景にあると考えられる。



③ガン保険・ガン特約の加入率

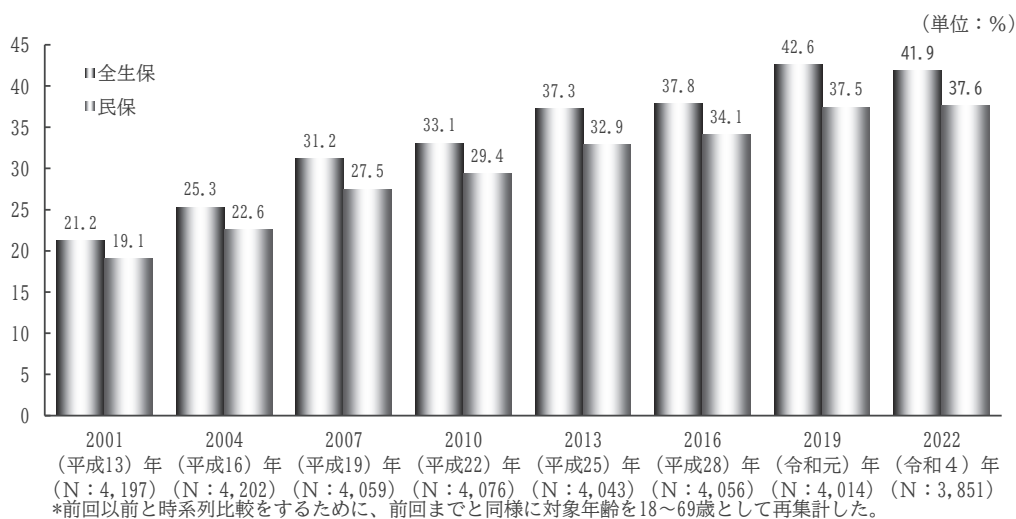
民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等で取り扱っているガン保険・ガン特約の加入率は、39.1%となっている。また、民保は35.2%となっている。（図表Ⅱ－35）

<図表Ⅱ-35> ガン保険・ガン特約の加入率

	(単位：％)		
	N	全生保	民保
2022 (令和4)年	4,844	39.1	35.2

*集計対象は18～79歳

【参考】 前回と比較しても、大きな差異はみられない。



性別にみると、ガン保険・ガン特約の加入率は、全生保が男性で 38.0%、女性で 40.0%となっている。民保は男性で35.3%、女性で35.1%となっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保とも男性では40～60歳代で、女性では30～50歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－36）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-36> ガン保険・ガン特約の加入率〔性・年齢別〕

	(単位：％)		
	N	全生保	民保
男 性	2,141	38.0	35.3
20歳代	235	14.0▲	12.3▲
30歳代	275	42.9	40.4
40歳代	375	46.4	43.2
50歳代	358	45.5	43.9
60歳代	422	45.0	40.5
70歳代	447	30.0▲	28.0▲
女 性	2,703	40.0	35.1
20歳代	210	21.9▲	18.6▲
30歳代	366	46.4	42.1
40歳代	534	50.6	44.9
50歳代	508	49.2	43.3
60歳代	505	38.2	31.9
70歳代	546	27.3▲	23.8▲

④特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率

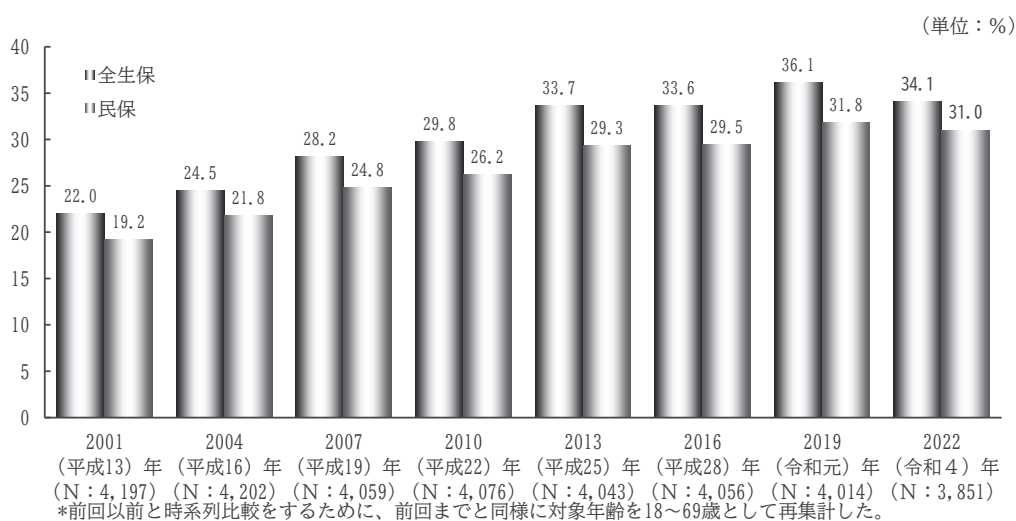
民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等で取り扱っている特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率は、30.9%となっている。また、民保は28.0%となっている。（図表Ⅱ－37）

<図表Ⅱ-37> 特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率

	(単位：％)		
	N	全生保	民保
2022 (令和4)年	4,844	30.9	28.0

*集計対象は18～79歳

【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



性別にみると、特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率は、全生保が男性で30.7%、女性で31.1%となっている。民保は男性で28.2%、女性で27.8%となっている。

性・年齢別にみると、全生保は男性30～60歳代、女性30～50歳代で、民保は男女とも30～50歳代で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－38）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-38> 特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率〔性・年齢別〕

	(単位：％)		
	N	全生保	民保
男 性	2,141	30.7	28.2
20歳代	235	12.8▲	11.9▲
30歳代	275	38.9	36.7
40歳代	375	40.3	37.6
50歳代	358	41.1	39.7
60歳代	422	35.3	30.1
70歳代	447	16.3▲	14.3▲
女 性	2,703	31.1	27.8
20歳代	210	17.6▲	15.2▲
30歳代	366	36.6	34.4
40歳代	534	40.4	36.9
50歳代	508	37.8	32.7
60歳代	505	29.3	26.1
70歳代	546	20.1▲	17.6▲

⑤先進医療保険・先進医療特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等では取り扱っている先進医療保険・先進医療特約の加入率は、25.6%となっている。また、民保は22.7%となっている。（図表Ⅱ－39）

<図表Ⅱ-39> 先進医療保険・先進医療特約の加入率

(単位：％)			
	N	全生保	民保
2022 (令和4)年	4,844	25.6	22.7

*民保はかんぽ生命を含む

性別にみると、先進医療保険・先進医療特約の加入率は、全生保で女性が男性より高くなっている。性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男女とも30～50歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－40）なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-40> 先進医療保険・先進医療特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：％)			
	N	全生保	民保
男 性	2,141	24.1	21.3
20歳代	235	10.2▲	8.5▲
30歳代	275	33.1	30.5
40歳代	375	32.5	29.3
50歳代	358	30.7	28.2
60歳代	422	26.1	22.3
70歳代	447	12.5▲	10.5▲
女 性	2,703	26.9	23.0
20歳代	210	15.7▲	12.4▲
30歳代	366	33.1	28.7
40歳代	534	35.6	30.3
50歳代	508	32.1	28.0
60歳代	505	25.9	22.6
70歳代	546	15.6▲	12.6▲

*民保はかんぽ生命を含む

⑥認知症保険・認知症特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）で取り扱っている認知症保険・認知症特約の加入率は、1.9%となっている。また、民保は1.9%となっている。（図表Ⅱ－41）

＜図表Ⅱ-41＞ 認知症保険・認知症特約の加入率

(単位：％)			
	N	全生保	民保
2022 (令和4)年	4,844	1.9	1.9

*民保はかんぽ生命を含む

性別にみると、認知症保険・認知症特約の加入率は、全生保が男性で1.9%、女性で2.0%となっている。民保は男性で1.9%、女性で1.9%となっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保とも男性50歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－42）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

＜図表Ⅱ-42＞ 認知症保険・認知症特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：％)			
	N	全生保	民保
男 性	2,141	1.9	1.9
20歳代	235	0.0▲	0.0▲
30歳代	275	2.5	2.5
40歳代	375	1.9	1.9
50歳代	358	3.4	3.4
60歳代	422	1.7	1.7
70歳代	447	1.8	1.8
女 性	2,703	2.0	1.9
20歳代	210	1.0	1.0
30歳代	366	1.4	1.4
40歳代	534	1.5	1.5
50歳代	508	2.8	2.8
60歳代	505	2.4	2.2
70歳代	546	2.2	2.2

*民保はかんぽ生命を含む

⑦生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）で取り扱っている生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率は、5.3%となっている。また、民保は5.2%となっている。（図表Ⅱ－43）

＜図表Ⅱ-43＞ 生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率

（単位：％）

	N	全生保	民保
2022 （令和4）年	4,844	5.3	5.2

*民保はかんぽ生命を含む

*集計対象は18～79歳

【参考】前回と比較すると、全生保が2.8ポイント、民保が2.3ポイント、それぞれ減少している。

（単位：％）

	N	全生保	民保
2022 （令和4）年	3,851	6.3	6.2
2019 （令和元）年	4,014	9.1	8.5

*民保はかんぽ生命を含む

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性別にみると、生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率は、全生保、民保ともに男性が女性より高くなっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男性30～40歳代、女性40歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－44）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

＜図表Ⅱ-44＞ 生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	全生保	民保
男 性	2,141	6.4	6.2
20歳代	235	5.1	5.1
30歳代	275	11.3	10.9
40歳代	375	12.5	12.3
50歳代	358	7.0	6.7
60歳代	422	3.6▲	3.6▲
70歳代	447	1.1▲	1.1▲
女 性	2,703	4.4	4.4
20歳代	210	6.7	6.7
30歳代	366	6.0	6.0
40歳代	534	7.9	7.9
50歳代	508	3.3	3.3
60歳代	505	3.2	3.2
70歳代	546	1.3▲	1.3▲

*民保はかんぽ生命を含む

⑧健康増進型保険・健康増進型特約の加入率

民間の生命保険会社で取り扱っている健康増進型保険・健康増進型特約の加入率は、1.2%となっている。（図表Ⅱ－45）

<図表Ⅱ-45> 健康増進型保険・健康増進型特約の加入率

（単位：％）

	N	民保
2022 （令和4）年	4,844	1.2

*民保はかんぽ生命を含む

性別にみると、健康増進型保険・健康増進型特約の加入率は、男性で1.2%、女性で1.3%となっている。

性・年齢別にみると、女性20～30歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－46）
なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-46> 健康増進型保険・健康増進型特約の加入率〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	民保
男 性	2,141	1.2
20歳代	235	0.4
30歳代	275	1.8
40歳代	375	2.1
50歳代	358	2.0
60歳代	422	0.2▲
70歳代	447	0.4
女 性	2,703	1.3
20歳代	210	2.9
30歳代	366	2.7
40歳代	534	0.9
50歳代	508	1.4
60歳代	505	1.2
70歳代	546	0.2▲

*民保はかんぽ生命を含む

(2) 疾病入院給付金

① 疾病入院給付金日額

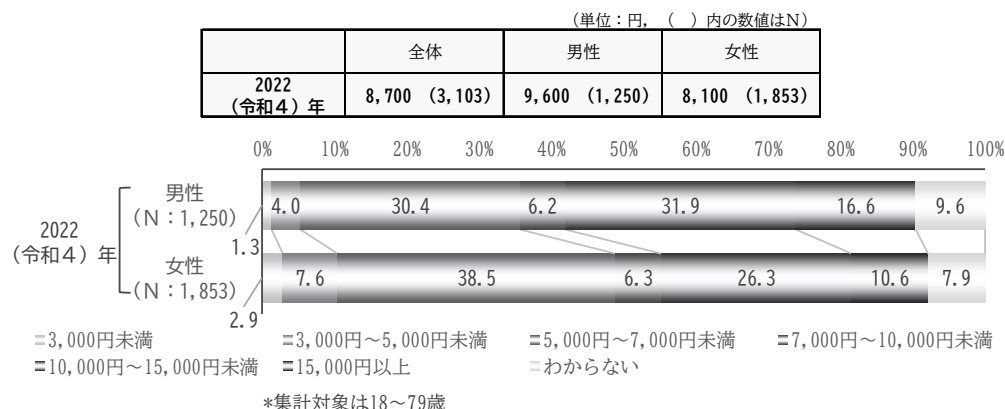
(a) 疾病入院給付金日額（全生保）

「疾病入院給付金の支払われる生命保険に加入」とした人の疾病入院給付金日額の平均は、全体で 8,700 円、男性で 9,600 円、女性で 8,100 円となっている。

金額の分布をみると、男性では「10,000～15,000 円未満」、女性では「5,000～7,000 円未満」が最も多く、3 割を超えている。（図表 II－47）

＜図表 II-47＞ 疾病入院給付金日額（全生保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕



【参考】前回と比較すると、疾病入院給付金日額の平均は男性で 1,000 円、女性で 800 円減少している。コロナ感染拡大に伴う行動制限による消費の減少等の経済環境の変化や世帯年収の減少などが背景にあると考えられる。

（単位：円，（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
2022 (令和4) 年	8,900 (2,501)	9,900 (1,007)	8,300 (1,494)
2019 (令和元) 年	9,800 (2,934)	10,900 (1,226)	9,100 (1,708)
2016 (平成28) 年	9,900 (2,925)	10,800 (1,213)	9,200 (1,712)
2013 (平成25) 年	9,800 (2,990)	10,900 (1,275)	9,000 (1,715)
2010 (平成22) 年	10,000 (2,948)	11,000 (1,305)	9,200 (1,643)
2007 (平成19) 年	10,200 (2,896)	11,800 (1,312)	9,000 (1,584)
2004 (平成16) 年	9,200 (2,913)	10,500 (1,299)	8,200 (1,614)
2001 (平成13) 年	8,800 (3,062)	10,100 (1,432)	7,800 (1,630)
1998 (平成10) 年	8,100 (3,053)	9,500 (1,453)	6,900 (1,600)
1996 (平成8) 年	8,200 (3,148)	9,400 (1,532)	7,100 (1,616)

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性・年齢別にみると、男女とも 50 歳代（男性 10,900 円、女性 8,700 円）で最も高くなっている。分布をみると、男性では 30 歳代で「10,000～15,000 円未満」が、40～50 歳代で「15,000 円以上」が高くなっている。一方、女性では 40 歳代で「10,000～15,000 円未満」が、70 歳代で「3,000 円未満」、「3,000～5,000 円未満」が高くなっている。（図表Ⅱ－48）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-48> 疾病入院給付金日額（全生保）〔性・年齢別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕

(単位：%)									
	N	3,000円 未満	3,000～ 5,000円 未満	5,000～ 7,000円 未満	7,000～ 10,000円 未満	10,000～ 15,000円 未満	15,000円 以上	わからない	平均 (円)
男 性	1,250	1.3	4.0	30.4	6.2	31.9	16.6	9.6	9,600
20歳代	60	3.3	8.3	38.3	11.7	21.7	8.3	8.3	7,400
30歳代	170	0.6	4.1	32.9	3.5	40.6	10.6▲	7.6	9,200
40歳代	248	0.0▲	2.8	24.2▲	4.8	34.7	21.0	12.5	10,500
50歳代	247	0.0▲	3.6	20.2▲	6.9	34.0	21.5	13.8	10,900
60歳代	277	1.4	1.8▲	33.2	7.2	30.0	16.6	9.7	9,600
70歳代	243	3.3	7.0	39.5	6.6	25.9▲	13.6	4.1▲	8,300
女 性	1,853	2.9	7.6	38.5	6.3	26.3	10.6	7.9	8,100
20歳代	88	4.5	6.8	44.3	6.8	23.9	5.7	8.0	7,100
30歳代	246	1.2	4.9	43.9	4.9	26.8	9.3	8.9	8,000
40歳代	389	2.1	6.4	35.2	4.4	34.2	11.1	6.7	8,400
50歳代	394	1.5	5.6	34.3	7.9	29.4	11.4	9.9	8,700
60歳代	370	2.4	7.0	37.3	7.8	24.3	12.4	8.6	8,300
70歳代	359	6.4	13.4	42.1	6.1	17.0▲	9.5	5.6	7,000

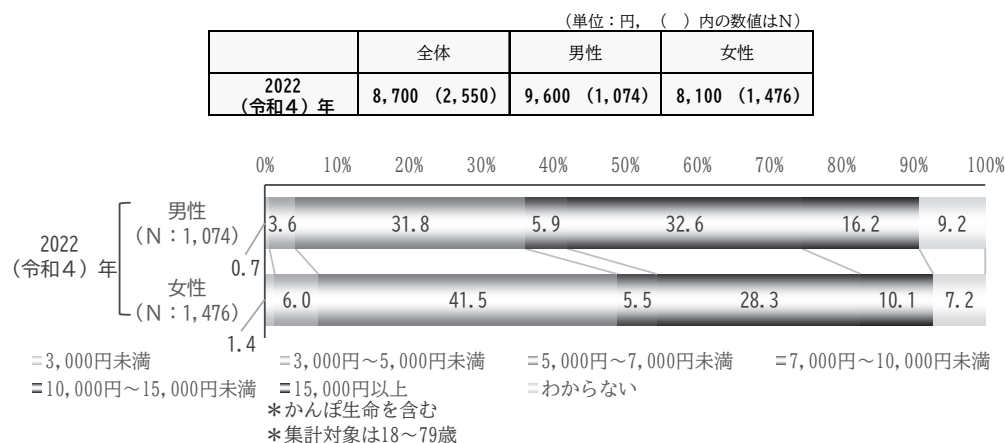
(b) 疾病入院給付金日額（民保）

次に疾病入院給付金の支払われる民間の生命保険加入者の疾病入院給付金日額の平均は、全体で8,700円、男性で9,600円、女性で8,100円となっている。（図表Ⅱ－49）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

＜図表Ⅱ-49＞ 疾病入院給付金日額（民保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる民保の生命保険・個人年金保険加入者〕



【参考】前回と比較すると、疾病入院給付金日額の平均は男性で800円、女性で600円、減少している。コロナ感染拡大に伴う行動制限による消費の減少等の経済環境の変化や世帯年収の減少などが背景にあると考えられる。

（単位：円、（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
2022 (令和4) 年	8,900 (2,079)	9,900 (874)	8,300 (1,205)
2019 (令和元) 年	9,700 (2,436)	10,700 (1,039)	8,900 (1,397)
2016 (平成28) 年	9,600 (2,399)	10,700 (1,015)	8,900 (1,384)
2013 (平成25) 年	9,500 (2,435)	10,500 (1,076)	8,800 (1,359)
2010 (平成22) 年	9,600 (2,245)	10,700 (1,050)	8,600 (1,195)
2007 (平成19) 年	9,700 (2,120)	11,000 (1,050)	8,500 (1,070)
2004 (平成16) 年	8,400 (2,056)	9,500 (1,001)	7,300 (1,055)
2001 (平成13) 年	7,900 (2,094)	9,000 (1,076)	6,800 (1,018)
1998 (平成10) 年	7,200 (2,092)	8,100 (1,126)	6,200 (966)
1996 (平成8) 年	7,400 (2,233)	8,200 (1,197)	6,500 (1,036)

*2010（平成22）年調査以降はかんぽ生命を含む

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

②疾病入院給付金一時金額

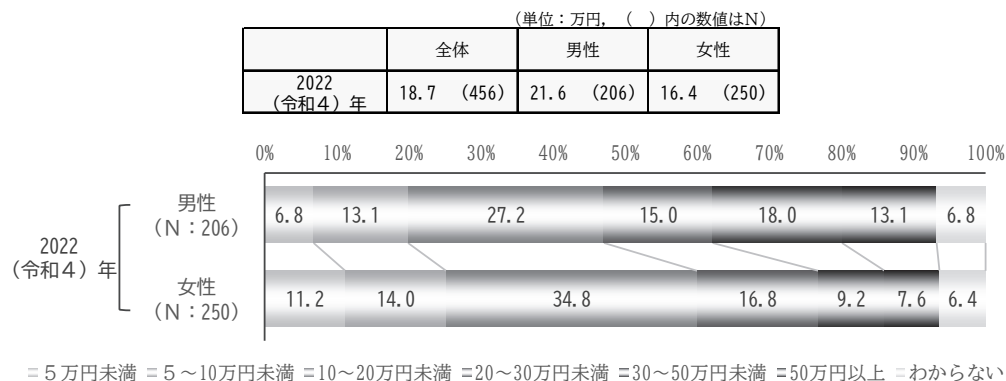
(a) 疾病入院給付金一時金額（全生保）

「疾病入院給付金一時金の支払われる生命保険に加入」とした人の疾病入院給付金一時金額の平均は、全体で18.7万円、男性で21.6万円、女性で16.4万円となっている。

金額の分布をみると、男性、女性いずれも「10～20万円未満」が最も多い。(図表Ⅱ－50)

<図表 Ⅱ-50> 疾病入院給付金一時金額（全生保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院一時金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕

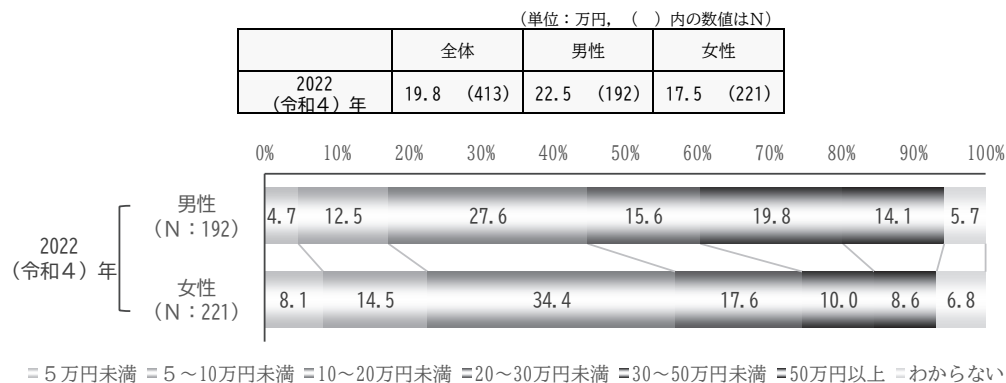


(b) 疾病入院給付金一時金額（民保）

疾病入院給付金一時金の支払われる民間の生命保険加入者の疾病入院給付金一時金額の平均は、全体で19.8万円、男性で22.5万円、女性で17.5万円となっている。(図表Ⅱ－51)

<図表 Ⅱ-51> 疾病入院給付金一時金額（民保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院一時金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕



(3) 疾病入院給付金の必要額

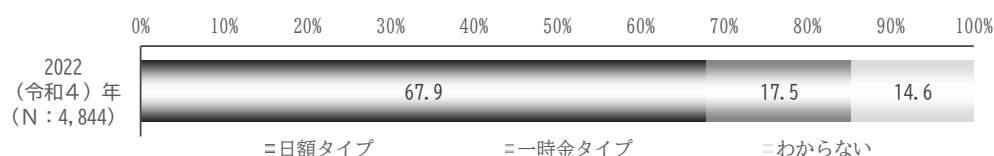
ケガや病気で入院時の医療費等への備えとして必要と考える商品のタイプを捉えるために、以下のよう尋ねた。

あなたご自身がケガや病気で入院された場合に、医療費等への備えとして、(1)どのような商品に、(2)いくらぐらい入院給付金が必要とお考えですか。商品のタイプをいずれか1つお選びの上、必要な金額をお答えください。

- (1) 商品タイプ
 (ア) 1日あたり一定額の入院給付金が受け取れる商品 (=日額タイプ)
 (イ) 1回の入院でまとめて給付金が受け取れる商品 (=一時金タイプ)
 わからない
- (2) 必要な入院給付金額
 1日約□□□00円の入院給付金が必要

その結果、「日額タイプ」は67.9%、「一時金タイプ」は17.5%となっている。(図表Ⅱ-52)

<図表Ⅱ-52> 疾病入院給付金のタイプ



性別にみると、「日額タイプ」が男性で66.6%、女性で68.9%となっている。「一時金タイプ」は男性で17.0%、女性で17.9%となっている。

性・年齢別にみると、「日額タイプ」は男性50～60歳代、女性40～60歳代で高く、「一時金タイプ」は男女とも20歳代で高くなっている。(図表Ⅱ-53)

<図表Ⅱ-53> 疾病入院給付金のタイプ〔性・年齢別〕

(単位: %)				
	N	日額タイプ	一時金タイプ	わからない
男 性	2,141	66.6	17.0	16.4
20歳代	235	48.1▲	25.5	26.4
30歳代	275	62.5	18.5	18.9
40歳代	375	70.1	17.9	12.0▲
50歳代	358	72.6	15.4	12.0▲
60歳代	422	73.7	14.9	11.4▲
70歳代	447	66.4	13.6▲	19.9
女 性	2,703	68.9	17.9	13.2
20歳代	210	50.0▲	25.7	24.3
30歳代	366	65.0	18.0	16.9
40歳代	534	74.0	18.2	7.9▲
50歳代	508	73.2	19.5	7.3▲
60歳代	505	74.5	15.4	10.1▲
70歳代	546	65.9	15.4	18.7

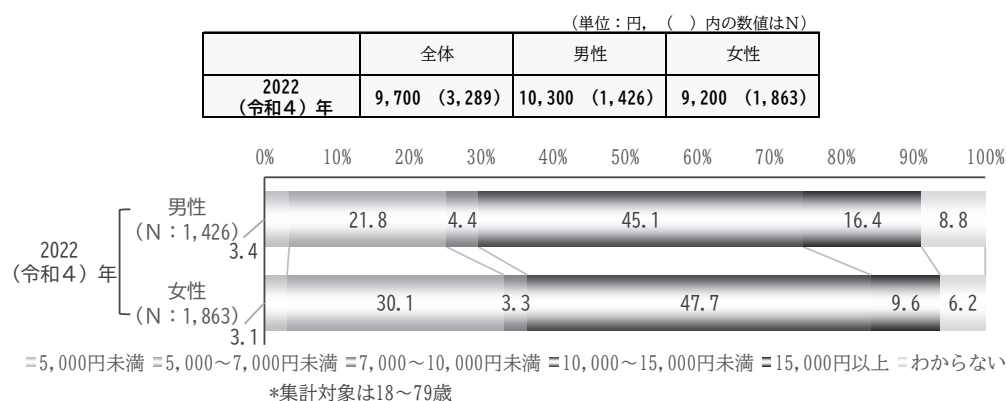
②疾病入院給付金日額

ケガや病気による入院時の医療費等への備えとして必要と考える疾病入院給付金日額を尋ねたところ、平均額は全体で9,700円となっている。

性別にみると、平均額は男性で10,300円、女性で9,200円となっている。金額の分布をみると、「10,000～15,000円未満」の割合は、男性で45.1%、女性で47.7%と最も高くなっている。

加入している疾病入院給付金日額（83ページ）と比較すると、男性で700円、女性で1,100円の不足となっている。（図表Ⅱ－54）

<図表Ⅱ-54> 疾病入院給付金日額の必要額〔性別〕



【参考】前回と比較すると、コロナ禍で診察や通院を控えてきたことの影響からか、男性で1,800円、女性で700円減少している。

（単位：円、（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
2022 (令和4)年	9,900 (2,632)	10,600 (1,129)	9,300 (1,503)
2019 (令和元)年	11,000 (4,014)	12,400 (1,765)	10,000 (2,249)
2016 (平成28)年	10,900 (4,056)	11,700 (1,746)	10,300 (2,310)
2013 (平成25)年	11,000 (4,043)	11,700 (1,769)	10,500 (2,274)
2010 (平成22)年	11,400 (4,076)	12,300 (1,848)	10,600 (2,228)
2007 (平成19)年	11,800 (4,059)	12,600 (1,862)	11,200 (2,197)

* 2013（平成25）年調査までは「必要額」ではなく「希望する額」として質問

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性・年齢別にみると、男性では50歳代で11,000円台、女性では20歳代で10,000円台と高くなっている。

分布をみると、男性では50歳代で「10,000～15,000円未満」、「15,000円以上」が、70歳代で「5,000円未満」、「5,000～7,000円未満」が高くなっている。また、女性では30歳代で「15,000円以上」が、50～60歳代で「10,000～15,000円未満」が、70歳代で「5,000～7,000円未満」が高くなっている。（図表Ⅱ－55）

<図表Ⅱ-55> 疾病入院給付金日額の必要額〔性・年齢別〕

(単位：%)								
	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000円以上	わからない	平均値(円)
男 性	1,426	3.4	21.8	4.4	45.1	16.4	8.8	10,300
20歳代	113	4.4	18.6	6.2	34.5▲	15.0	21.2	10,700
30歳代	172	1.2	20.3	5.2	48.3	16.3	8.7	10,900
40歳代	263	1.5	23.2	4.9	42.6	19.4	8.4	10,300
50歳代	260	2.7	10.4▲	6.2	53.1	21.5	6.2	11,400
60歳代	311	2.6	25.4	4.2	48.2	13.8	5.8▲	10,000
70歳代	297	7.1	29.3	1.7▲	40.1	13.1	8.8	9,200
女 性	1,863	3.1	30.1	3.3	47.7	9.6	6.2	9,200
20歳代	105	1.9	32.4	2.9	35.2▲	10.5	17.1	10,500
30歳代	238	2.1	31.9	4.2	41.6▲	14.3	5.9	9,800
40歳代	395	3.5	29.9	3.5	51.6	7.1	4.3	8,800
50歳代	372	3.0	24.5▲	2.2	55.1	12.1	3.2▲	9,500
60歳代	376	2.7	26.9	2.9	54.3	8.0	5.3	9,100
70歳代	360	4.2	38.6	3.9	38.6▲	7.8	6.9	8,500

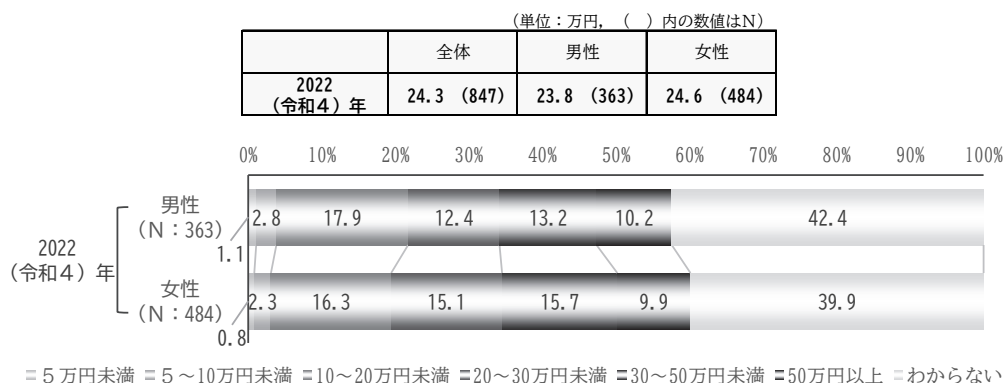
③疾病入院給付金一時金額

ケガや病気による入院時の医療費等への備えとして必要と考える疾病入院給付金一時金額を尋ねたところ、平均額は全体で24.3万円となっている。

性別にみると、平均額は男性で23.8万円、女性で24.6万円となっている。金額の分布をみると、「10～20万円未満」の割合は、男性で17.9%、女性で16.3%と最も高くなっている。

加入している疾病入院給付金一時金額（86ページ）と比較すると、男性で2.2万円、女性で8.2万円の不足となっている。（図表Ⅱ－56）

<図表Ⅱ-56> 疾病入院給付金一時金の必要額〔性別〕



(4) 疾病入院給付金の必要額に対する加入金額の割合

① 疾病入院給付金日額

前項でみた疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額の割合をみると、89.7%と9割に近い。性別にみると、男性は93.2%、女性は88.0%となっている。(図表Ⅱ－57)

<図表 Ⅱ-57> 疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額（全生保）の割合〔性別〕

(単位：円，() 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *
2022 (令和4) 年	9,700 (3,289)	8,700 (3,103)	89.7	10,300 (1,426)	9,600 (1,250)	93.2	9,200 (1,863)	8,100 (1,853)	88.0

*平均加入金額を平均必要額で除して計算

*集計対象は18～79歳

【参考】疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額の割合について時系列でみると、男性では前回に比べ5.5ポイント増加し、2016（平成28）年以前と同水準に回復している。

(単位：円，() 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *
2022 (令和4) 年	9,900 (2,632)	8,900 (2,501)	89.9	10,600 (1,129)	9,900 (1,007)	93.4	9,300 (1,503)	8,300 (1,494)	89.2
2019 (令和元) 年	11,000 (4,014)	9,800 (2,934)	89.1	12,400 (1,765)	10,900 (1,226)	87.9	10,000 (2,249)	9,100 (1,708)	91.0
2016 (平成28) 年	10,900 (4,056)	9,900 (2,925)	90.8	11,700 (1,746)	10,800 (1,213)	92.3	10,300 (2,310)	9,200 (1,712)	89.3
2013 (平成25) 年	11,000 (4,043)	9,800 (2,990)	89.1	11,700 (1,769)	10,900 (1,275)	93.2	10,500 (2,274)	9,000 (1,715)	85.7
2010 (平成22) 年	11,400 (4,076)	10,000 (2,948)	87.7	12,300 (1,848)	11,000 (1,305)	89.4	10,600 (2,228)	9,200 (1,643)	86.8
2007 (平成19) 年	11,800 (4,059)	10,200 (2,896)	86.4	12,600 (1,862)	11,800 (1,312)	93.7	11,200 (2,197)	9,000 (1,584)	80.4

*平均加入金額を平均必要額で除して計算

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

*2013（平成25）年調査までは「必要額」ではなく「希望する額」として質問

② 疾病入院給付金一時金額

前項でみた疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金一時金額の割合をみると、77.0%と8割に近い。性別にみると、男性は90.8%、女性は66.7%となっている。(図表Ⅱ－58)

<図表 Ⅱ-58> 疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金一時金額（全生保）の割合〔性別〕

(単位：万円，() 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *
2022 (令和4) 年	24.3 (847)	18.7 (456)	77.0	23.8 (363)	21.6 (206)	90.8	24.6 (484)	16.4 (250)	66.7

*平均加入金額を平均必要額で除して計算

6. 医療保障に対する充足感

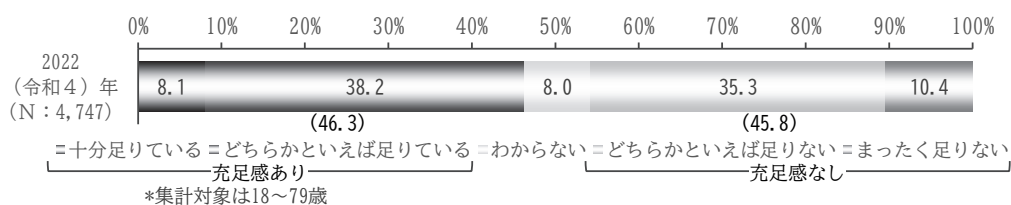
前述「4. 医療保障に対する私的準備状況」に公的保障や企業保障を加えた、医療保障に対する充足感を捉えるために、以下のように尋ねた。

現在の備えと公的医療保険や企業保障などをあわせると、医療費に対する準備は十分だとお考えですか。

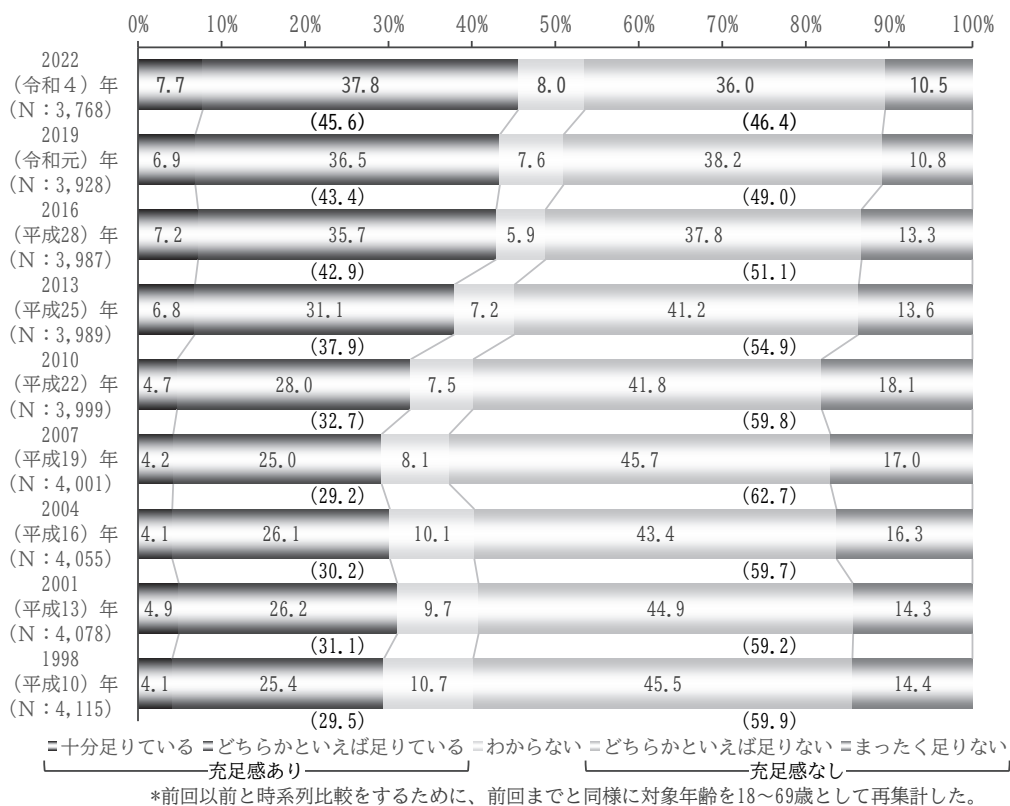
- (ア) 十分足りている
- (イ) どちらかといえば足りている
- (ウ) どちらかといえば足りない
- (エ) まったく足りない
- わからない

その結果、「充足感あり」（“十分足りている”と“どちらかといえば足りている”と回答した人の合計）は46.3%、「充足感なし」（“どちらかといえば足りない”と“まったく足りない”と回答した人の合計）は45.8%と、5割近くが不足感を感じている。（図表Ⅱ－59）

<図表Ⅱ-59> 医療保障に対する充足感



【参考】前回と比較すると、「充足感なし」が2.6ポイント減少している。



性・年齢別にみると、「充足感あり」は男性 70 歳代で高くなっている。(図表Ⅱ－60)

<図表 Ⅱ-60> 医療保障に対する充足感〔性・年齢別〕

(単位：％)

	N	十分足りて いる	どちらかとい えば足り ている	充足感 あり	わからない	充足感 なし	どちらかとい えば足り ない	まったく足 りない
男 性	2,086	9.6	37.6	47.3	8.3	44.4	35.0	9.4
20歳代	212	7.1	26.4▲	33.5▲	15.1	51.4	38.7	12.7
30歳代	267	12.7	37.5	50.2	7.1	42.7	33.3	9.4
40歳代	370	9.5	38.4	47.8	6.2	45.9	37.8	8.1
50歳代	355	8.7	35.8	44.5	7.3	48.2	37.5	10.7
60歳代	417	10.1	40.3	50.4	6.2	43.4	35.0	8.4
70歳代	441	9.8	42.0	51.7	9.1	39.2▲	30.4▲	8.8
女 性	2,661	6.9	38.6	45.5	7.7	46.8	35.5	11.3
20歳代	195	7.7	28.7▲	36.4▲	14.4	49.2	37.9	11.3
30歳代	365	7.4	38.1	45.5	7.1	47.4	35.9	11.5
40歳代	531	3.8▲	42.2	46.0	6.2	47.8	37.5	10.4
50歳代	506	6.5	38.5	45.1	6.3	48.6	37.7	10.9
60歳代	504	7.5	40.1	47.6	8.5	43.8	31.7▲	12.1
70歳代	538	9.1	37.7	46.8	6.9	46.3	34.6	11.7

性・本人職業別にみると、「充足感なし」は男性では商工サービス業、小企業被用者、非正規社員で、女性では非正規社員で高くなっている。

性・本人年収別にみると、「充足感なし」は男性では「300 万円未満」、「300～500 万円未満」の層で高くなっている。また、女性では「100 万円未満」の層で高くなっている。(図表Ⅱ－61)

<図表 Ⅱ-61> 医療保障に対する充足感〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

		(単位：%)							
		N			充足感 あり	わからない	充足感 なし	どちらかとい えば足りない	まったく足 りない
			十分足りて いる	どちらかとい えば足り ている					
男	性	2,086	9.6	37.6	47.3	8.3	44.4	35.0	9.4
本人職業	自 営 者	303	8.9	31.0▲	39.9▲	7.3	52.8	42.9	9.9
	農 林 漁 業	50	10.0	28.0	38.0	4.0	58.0	46.0	12.0
	商工サービス業	221	9.5	30.3▲	39.8▲	8.1	52.0	41.6	10.4
	常 雇 被 用 者	1,036	10.8	39.9	50.7	6.2▲	43.1	35.4	7.7▲
	公 務 員	90	12.2	51.1	63.3	4.4	32.2▲	30.0	2.2▲
	民間企業被用者	946	10.7	38.8	49.5	6.3▲	44.2	35.9	8.2
	小企業被用者	177	8.5	31.6	40.1▲	5.6	54.2	44.6	9.6
	中企業被用者	462	9.3	38.7	48.1	6.9	45.0	35.3	9.7
	大企業被用者	295	13.9	43.1	56.9	6.1	36.9▲	31.9	5.1▲
	非 正 規 社 員	163	3.1▲	31.9	35.0▲	9.8	55.2	41.7	13.5
	無 職	485	11.1	40.0	51.1	9.5	39.4▲	28.7▲	10.7
本人年収	収 入 は な い	88	4.5	19.3▲	23.9▲	21.6	54.5	30.7	23.9
	300 万 円 未 満	697	7.5▲	34.1▲	41.6▲	9.6	48.8	35.9	12.9
	300 ～ 500 万 円 未 満	440	8.2	34.8	43.0▲	6.4	50.7	41.8	8.9
	500 ～ 700 万 円 未 満	291	10.7	46.0	56.7	3.4▲	39.9	33.3	6.5
	700 ～ 1,000 万 円 未 満	170	12.9	48.2	61.2	7.1	31.8▲	27.6▲	4.1▲
	1,000 万 円 以 上	70	21.4	51.4	72.9	2.9	24.3▲	21.4▲	2.9
女	性	2,661	6.9	38.6	45.5	7.7	46.8	35.5	11.3
本人職業	自 営 者	198	8.6	45.5	54.0	8.1	37.9▲	29.3	8.6
	農 林 漁 業	26	7.7	34.6	42.3	7.7	50.0	46.2	3.8
	商工サービス業	148	9.5	49.3	58.8	8.1	33.1▲	25.0▲	8.1
	常 雇 被 用 者	668	8.1	40.6	48.7	7.5	43.9	34.7	9.1▲
	公 務 員	74	12.2	50.0	62.2	6.8	31.1▲	27.0	4.1▲
	民間企業被用者	594	7.6	39.4	47.0	7.6	45.5	35.7	9.8
	小企業被用者	142	5.6	34.5	40.1	12.7	47.2	35.2	12.0
	中企業被用者	260	6.5	38.1	44.6	6.9	48.5	38.1	10.4
	大企業被用者	163	11.7	45.4	57.1	4.3	38.7▲	32.5	6.1▲
	非 正 規 社 員	723	3.6▲	34.9▲	38.5▲	6.4	55.2	40.9	14.2
	無 職	1,011	8.3	38.9	47.2	7.9	44.9	33.5	11.4
本人年収	収 入 は な い	425	7.5	40.2	47.8	6.8	45.4	33.6	11.8
	100 万 円 未 満	607	5.3	34.3▲	39.5▲	6.9	53.5	38.6	15.0
	100 ～ 300 万 円 未 満	901	5.9	37.7	43.6	7.9	48.5	36.8	11.7
	300 ～ 500 万 円 未 満	276	6.9	46.0	52.9	6.2	40.9▲	34.4	6.5▲
	500 万 円 以 上	117	12.8	59.0	71.8	1.7▲	26.5▲	22.2▲	4.3▲

7. 医療保障に対する今後の準備意向

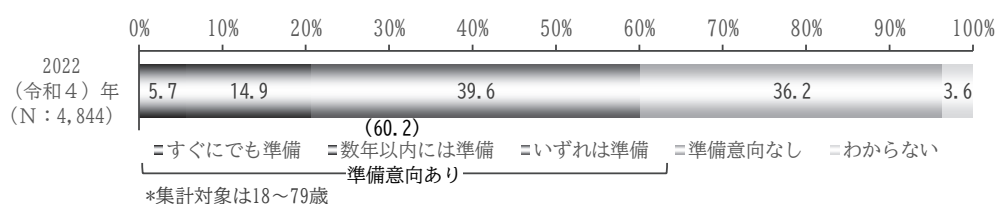
ここでは、医療保障に対する今後の準備意向を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身がケガや病気で治療や入院されることになった場合に備えて、今後新たに経済的な準備をしたいとお考えですか。

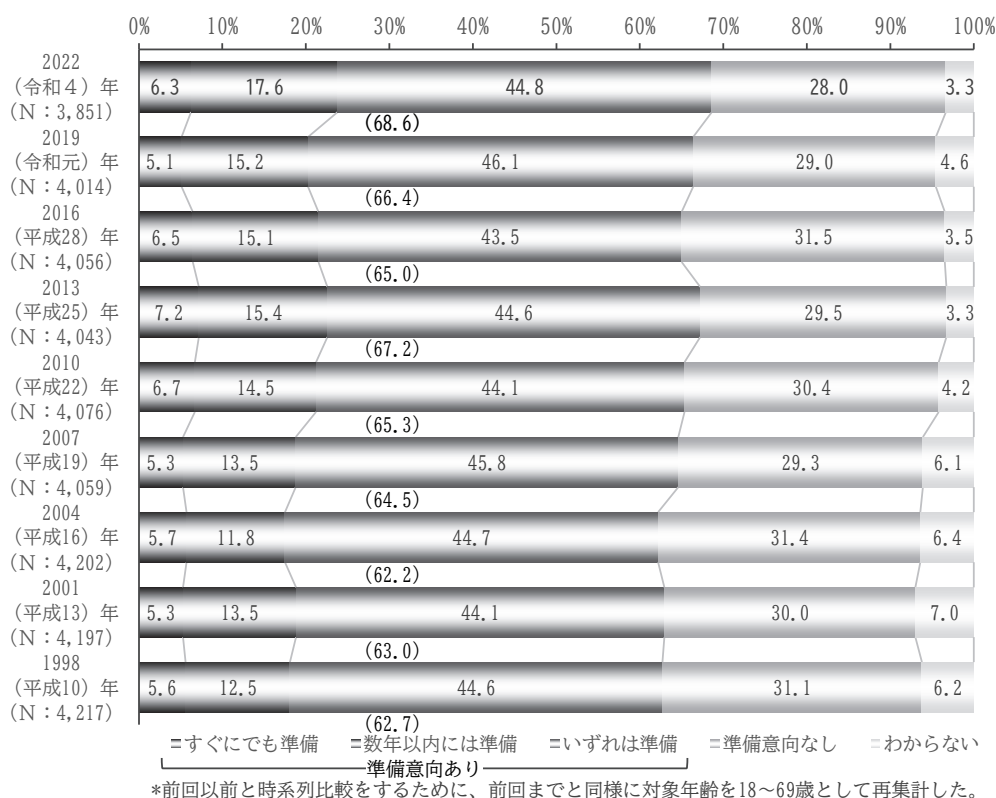
- (ア) すぐにでも準備したい ……以下「すぐにでも準備」
 (イ) 数年以内には準備したい ……以下「数年以内には準備」
 (ウ) 特に時期は決めていないが、いずれは準備したい ……以下「いずれは準備」
 (エ) まったく準備するつもりはない ……以下「準備意向なし」
 わからない

その結果、「準備意向あり」（上記の選択肢で(ア)～(ウ)のいずれかに回答した人の合計）は60.2%、「準備意向なし」は36.2%となっている。（図表Ⅱ-62）

<図表Ⅱ-62> 医療保障に対する今後の準備意向



【参考】前回と比較すると、「準備意向あり」が2.2ポイント増加している。



性・年齢別にみると、男女とも概ね若年齢層ほど「準備意向あり」が高くなっている。（図表Ⅱ－63）

<図表 Ⅱ-63> 医療保障に対する今後の準備意向〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	すぐにでも準備	数年以内には準備	いずれは準備	準備意向あり	準備意向なし	わからない
男 性	2,141	5.2	14.1	38.8	58.1	38.4	3.5
20歳代	235	5.5	33.2	49.8	88.5	8.5▲	3.0
30歳代	275	5.1	15.6	50.5	71.3	25.8▲	2.9
40歳代	375	7.2	17.6	45.9	70.7	27.2▲	2.1
50歳代	358	4.2	15.9	47.2	67.3	29.1▲	3.6
60歳代	422	5.5	7.6▲	32.7▲	45.7▲	51.4	2.8
70歳代	447	3.8	4.0▲	19.5▲	27.3▲	67.6	5.1
女 性	2,703	6.1	15.6	40.1	61.9	34.4	3.7
20歳代	210	7.6	24.8	49.5	81.9	13.3▲	4.8
30歳代	366	4.6	21.9	55.5	82.0	15.8▲	2.2
40歳代	534	6.2	17.8	52.6	76.6	20.0▲	3.4
50歳代	508	6.7	18.7	45.5	70.9	26.6▲	2.6
60歳代	505	9.3	12.3▲	28.5▲	50.1▲	45.3	4.6
70歳代	546	3.3▲	5.5▲	18.9▲	27.7▲	68.1	4.2

性・本人職業別にみると、「準備意向あり」は男性では常雇被用者で、女性では民間企業被用者と非正規社員で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－64）

<図表 Ⅱ-64> 医療保障に対する今後の準備意向〔性・本人職業別〕

(単位：％)

	N	すぐにでも 準備	数年以内 には準備	いずれは 準備	準備意向 あり	準備意向 なし	わからない
男 性	2,141	5.2	14.1	38.8	58.1	38.4	3.5
自 営 者	307	4.6	11.4	44.0	59.9	36.8	3.3
農 林 漁 業	50	4.0	6.0	42.0	52.0	42.0	6.0
商工サービス業	225	4.4	12.9	42.7	60.0	36.9	3.1
常 雇 被 用 者	1,051	5.9	17.1	45.1	68.1	29.2▲	2.7▲
公 務 員	90	7.8	14.4	46.7	68.9	26.7▲	4.4
民間企業被用者	961	5.7	17.4	45.0	68.1	29.4▲	2.5▲
小企業被用者	179	5.0	19.0	44.1	68.2	27.4▲	4.5
中企業被用者	472	5.7	18.0	43.9	67.6	30.1▲	2.3
大企業被用者	297	5.7	15.8	47.1	68.7	30.0▲	1.3▲
非 正 規 社 員	168	5.4	17.9	36.3	59.5	37.5	3.0
無 職	499	4.6	5.0▲	22.0▲	31.7▲	63.9	4.4
女 性	2,703	6.1	15.6	40.1	61.9	34.4	3.7
自 営 者	199	6.5	14.1	38.2	58.8	37.2	4.0
農 林 漁 業	27	3.7	22.2	33.3	59.3	29.6	11.1
商工サービス業	148	7.4	13.5	38.5	59.5	38.5	2.0
常 雇 被 用 者	673	6.5	21.8	46.8	75.2	22.1▲	2.7
公 務 員	74	0.0▲	12.2	58.1	70.3	27.0	2.7
民間企業被用者	599	7.3	23.0	45.4	75.8	21.5▲	2.7
小企業被用者	145	6.9	20.0	44.8	71.7	24.1▲	4.1
中企業被用者	261	8.4	24.1	44.1	76.6	19.5▲	3.8
大企業被用者	164	6.1	23.8	49.4	79.3	20.7▲	0.0▲
非 正 規 社 員	726	7.9	16.1	46.0	70.0	26.3▲	3.7
無 職	1,023	4.9▲	11.3▲	30.3▲	46.5▲	49.7	3.8

8. 入院費用をまかなう手段

2～3ヵ月の入院が必要になる場合を想定したときに、公的な医療保障や企業からの保障、私的な準備などのなかで、どのような手段によって治療費や生活費をまかなおうと考えているかを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身がケガや病気で2～3ヵ月程度の入院が必要になった場合に、どのような手段で治療費や生活費などをまかなっていこうとお考えですか。これから準備しようとお考えのものも含めて、この中からいくつでもお答えください。

- (ア) 公的医療保険（国民健康保険や健康保険など）
- (イ) 企業の見舞金や休業補償
- (ウ) 民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）
.....以下「生命保険」
- (エ) 損害保険
- (オ) 預貯金
- (カ) 株式・債券などの有価証券以下「有価証券」
- (キ) 家族の収入
- (ク) その他
わからない

その結果、「公的医療保険」が74.6%と最も高く、以下「生命保険」（66.9%）、「預貯金」（55.8%）、「家族の収入」（17.6%）、「損害保険」（16.3%）の順となっている。（図表Ⅱ－65）

<図表Ⅱ-65> 入院費用をまかなう手段

（複数回答、単位：％）

	N	公的医療保険	企業の見舞金や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
2022 （令和4）年	4,844	74.6	12.9	66.9	16.3	55.8	3.8	17.6	0.9	1.9

*集計対象は18～79歳

【参考】前回と比較すると、「預貯金」が3.0ポイント、「公的医療保険」が2.6ポイント、それぞれ増加している。

(複数回答, 単位: %)

	N	公的 医療 保険	企業 補償 見舞 金や	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	家族 の収 入	その他	わから ない
2022 (令和4) 年	3,851	74.4	15.9	68.8	16.8	53.2	3.8	19.1	0.6	1.9
2019 (令和元) 年	4,014	71.8	14.3	69.8	15.3	50.2	2.3	18.2	0.6	2.4
2016 (平成28) 年	4,056	73.4	12.6	69.5	16.0	52.0	2.8	18.9	0.8	2.3
2013 (平成25) 年	4,043	72.9	10.7	67.4	14.8	49.7	2.4	18.9	1.3	1.5
2010 (平成22) 年	4,076	73.5	10.9	64.6	14.4	49.7	2.5	20.0	1.2	2.1
2007 (平成19) 年	4,059	73.8	11.4	66.7	18.0	48.9	2.6	19.4	0.8	2.3
2004 (平成16) 年	4,202	74.9	9.8	65.3	18.1	51.3	2.2	24.6	1.1	2.9
2001 (平成13) 年	4,197	75.1	14.2	64.9	21.6	50.9	2.2	22.8	0.8	2.0
1998 (平成10) 年	4,217	74.0	12.4	67.0	21.1	52.7	2.0	26.7	0.6	2.6

*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性別にみると、「企業の見舞金や休業補償」、「損害保険」、「有価証券」は男性で高く、「生命保険」、「家族の収入」は女性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「企業の見舞金や休業補償」は男性 30～50 歳代、女性 20～50 歳代で、「生命保険」は男性 40～60 歳代、女性 40～50 歳代で、それぞれ高くなっている。(図表 II-66)

<図表 II-66> 入院費用をまかなう手段〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	公的 医療 保険	企業 補償 見舞 金や	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	家族 の収 入	その他	わから ない
男 性	2,141	75.4	15.6	65.0	19.3	55.2	5.8	9.7	1.3	1.9
20歳代	235	75.3	16.6	39.6▲	15.7	45.5▲	3.4	20.4	0.4	3.8
30歳代	275	73.8	33.8	67.3	17.8	54.9	5.8	12.4	0.4	2.2
40歳代	375	70.4▲	23.5	74.9	20.8	50.4▲	4.0	7.7	0.8	1.6
50歳代	358	74.6	22.1	71.8	26.0	48.0▲	6.4	8.4	1.1	1.4
60歳代	422	78.4	5.9▲	72.3	19.4	62.1	7.8	7.1▲	1.2	0.9
70歳代	447	78.5	1.6▲	59.5▲	16.1	64.7	6.7	5.8▲	2.9	2.0
女 性	2,703	73.9	10.8	68.4	13.9	56.3	2.3	23.9	0.7	2.0
20歳代	210	74.3	20.0	49.0▲	9.0▲	41.9▲	1.9	30.0	0.5	4.8
30歳代	366	76.8	18.6	71.0	12.8	59.8	2.7	31.4	0.3	1.4
40歳代	534	72.1	15.9	76.2	12.0	47.2▲	2.1	29.2	0.2	1.3
50歳代	508	75.8	13.8	78.9	17.5	57.1	2.2	25.4	0.0▲	0.4▲
60歳代	505	75.2	4.0▲	68.3	16.2	58.8	3.0	15.0▲	0.8	3.0
70歳代	546	72.3	0.9▲	59.3▲	13.2	67.4	1.8	16.7▲	2.0	1.8

性・本人職業別にみると、「生命保険」は男性では公務員、中企業被用者、大企業被用者で、女性では民間企業被用者と非正規社員で高くなっている。

性・本人年収別にみると、男女とも概ね高年収層ほど「企業の見舞金や休業補償」、「生命保険」が高くなっている。（図表Ⅱ－67）

<図表 Ⅱ-67> 入院費用をまかなう手段〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

（複数回答，単位：％）

		N	公的医療保険	休業補償 企業の見舞金や	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
男性			2,141	75.4	15.6	65.0	19.3	55.2	5.8	9.7	1.3
本人職業別	自営者	307	75.2	3.6▲	66.4	22.8	61.6	6.5	9.4	1.6	1.3
	農林漁業	50	70.0	0.0▲	62.0	14.0	64.0	4.0	14.0	4.0	2.0
	商工サービス業	225	77.8	4.4▲	68.0	24.4	60.4	7.1	8.4	0.9	1.3
	常雇被用者	1,051	76.0	28.1	72.7	21.9	52.9▲	5.3	8.9	0.5▲	1.0▲
	公務員	90	77.8	24.4	80.0	22.2	60.0	5.6	6.7	0.0	0.0
	民間企業被用者	961	75.9	28.4	72.0	21.9	52.2▲	5.3	9.2	0.5▲	1.1▲
	小企業被用者	179	79.3	19.0	68.2	18.4	46.9▲	2.2▲	8.4	1.1	1.7
	中企業被用者	472	76.1	26.9	71.2	23.1	51.9	4.7	9.7	0.6	1.5
	大企業被用者	297	73.7	36.4	76.8	21.2	55.9	8.4	8.4	0.0▲	0.3▲
	非正規社員	168	76.8	8.9▲	61.3	14.9	53.0	6.0	11.9	0.0	3.0
	無職	499	75.6	0.4▲	56.5▲	15.0▲	61.7	7.4	5.4▲	3.4	3.2
本人年収別	収入はない	103	64.1▲	1.9▲	25.2▲	14.6	36.9▲	1.0▲	27.2	4.9	9.7
	300万円未満	716	76.3	7.5▲	57.0▲	16.5▲	55.4	5.4	11.6	2.1	1.8
	300～500万円未満	446	76.2	18.4	69.3	22.0	55.6	6.7	7.4	0.7	1.3
	500～700万円未満	292	76.7	28.1	77.1	21.6	56.8	7.5	8.6	0.0▲	0.3▲
	700～1,000万円未満	171	76.6	27.5	78.9	24.0	57.9	9.9	7.0	0.6	0.6
	1,000万円以上	70	68.6	31.4	75.7	21.4	50.0	7.1	2.9▲	0.0	1.4
女性			2,703	73.9	10.8	68.4	13.9	56.3	2.3	23.9	0.7
本人職業別	自営者	199	73.9	3.5▲	72.9	16.6	59.8	4.5	21.6	1.0	1.5
	農林漁業	27	74.1	0.0	85.2	7.4	51.9	0.0	25.9	3.7	3.7
	商工サービス業	148	75.7	4.1▲	73.6	17.6	60.8	4.7	22.3	0.7	1.4
	常雇被用者	673	77.1	27.0	73.3	15.8	54.1	2.2	17.4▲	0.3	1.2
	公務員	74	81.1	25.7	78.4	13.5	59.5	0.0	31.1	0.0	1.4
	民間企業被用者	599	76.6	27.2	72.6	16.0	53.4	2.5	15.7▲	0.3	1.2
	小企業被用者	145	76.6	17.2	73.1	18.6	45.5▲	2.1	13.1▲	0.0	0.7
	中企業被用者	261	73.2	26.8	71.3	14.9	53.3	3.4	15.3▲	0.8	1.9
	大企業被用者	164	81.7	36.6	75.0	17.7	59.1	1.8	18.3	0.0	0.6
	非正規社員	726	71.6	9.8	73.0	14.9	51.1▲	1.4	27.5	0.1▲	1.9
	無職	1,023	74.8	2.4▲	63.8▲	11.7▲	62.6	2.6	24.4	1.3	2.1
本人年収別	収入はない	445	73.7	4.3▲	63.6▲	11.2	57.1	2.2	36.9	1.1	2.9
	100万円未満	615	74.5	4.4▲	64.2▲	13.3	56.9	1.5	27.3	0.8	1.5
	100～300万円未満	905	76.7	12.9	72.0	15.6	55.0	1.9	19.4▲	0.7	1.2▲
	300～500万円未満	277	77.6	22.0	76.2	13.7	60.3	3.6	19.1	0.0	0.7
	500万円以上	117	68.4	31.6	79.5	15.4	59.8	5.1	19.7	0.9	0.9